KONAN TODAY

2020 AUTUMN | No.58

● 特 集［就任インタビュー］

第14代甲南学園理事長　長坂 悦敬

第18代甲南大学長　中井 伊都子

● 特 集

甲南学園の
新型コロナウイルス感染症対策

KONAN TODAY No.58

2020年10月19日発行［発行］甲南学園広報部　〒658-8501　神戸市東灘区岡本8丁目9番1号　TEL.078-431-4341(代)　https://www.konan-u.ac.jp

Campus Photo

キャンパス フォト

『ウィズコロナに向けて』

本学では、対面授業が一部再開された6月上旬、コロナ禍における「新しい生活様式」の周知活動の一環として、ポスターを制作しました。

ポスターには大学公式キャラクターの「なんぼーくん」を使用し、キャンパスの正門や各建物の入口など人目に付く場所を中心に掲示しています。教職員や学生らが目にすることで、一人ひとりの意識を高めるべく努めております。

後期の対面授業開始にあたり、より安全に留意した学修環境の整備をめざし、全学をあげて力を尽くしてまいります。

特集［就任インタビュー］

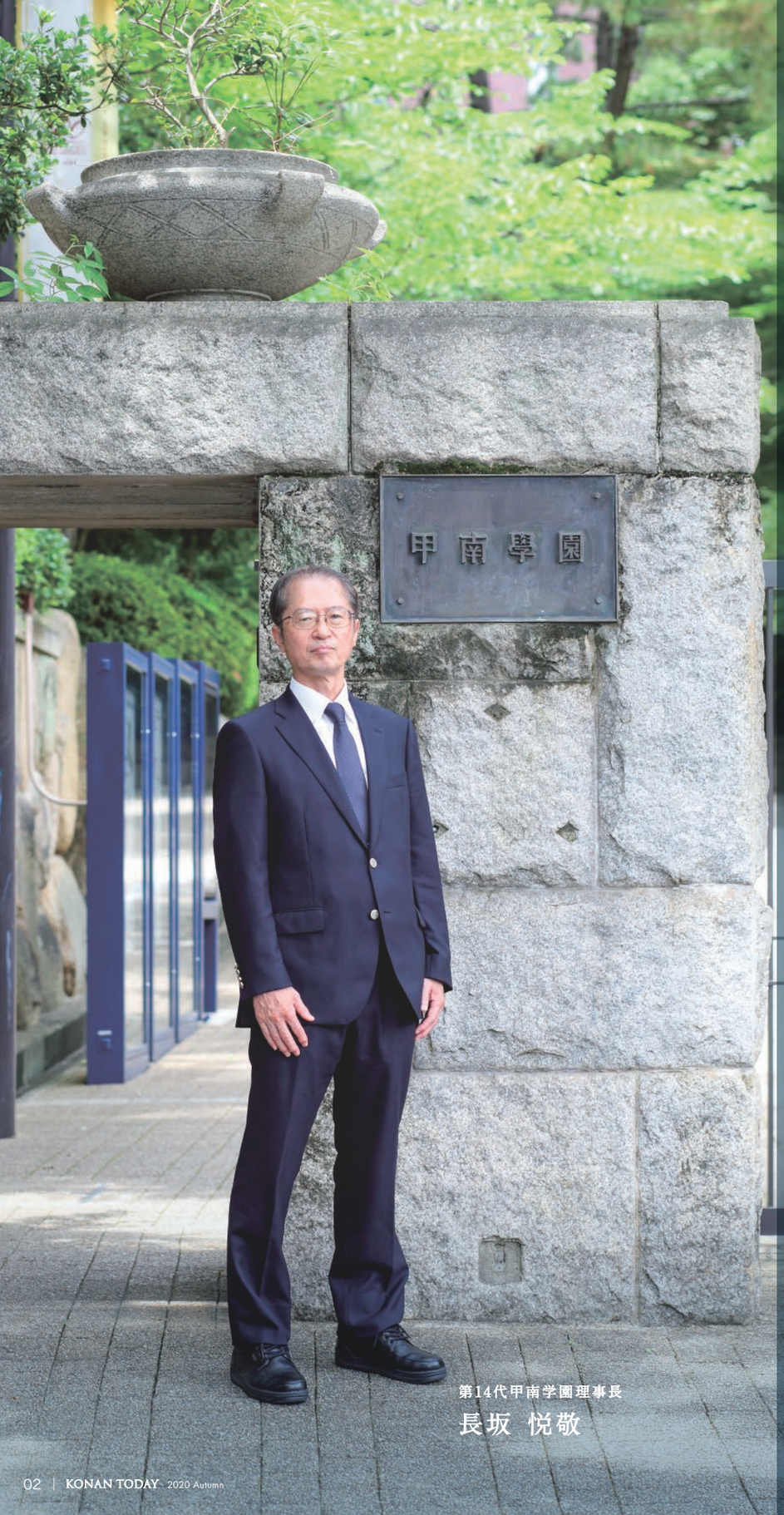
人物教育率先の理念を より高いレベルで実践する

意欲と経験に満ちた 新たな布陣

甲南学園は、２０１９年４月に学園創立１００周年を迎え、元号が令和へと改元されるのと機を同じくして、新世紀に入りました。

そしてこのたび、新しい世紀を歩み始めた学園において、二人のリーダーが誕生しました。長年にわたり重責を担ってきた第13代甲南学園理事長吉沢英成が、２０２０年３月31日に任期満了にともない退任し、新たに第14代理事長として長坂悦敬が就任。また、第18代甲南大学長に、中井伊都子（法学部教授）が就任しました。長坂新理事長は、これまで第17代甲南大学長として「KONAN U.VISION 2020」のもと、変革を推進し教育の質向上に努め、中井新学長は、副学長として長坂学長とともに大学改革に取り組んできた経歴を有します。

ここでは、学園創立者平生釟三郎が描いた人物教育を率先する理想に向かって、「新しい世紀のＫＯＮＡＮ」を先導する二人の決意を紹介します。



第14代甲南学園理事長
長坂 悦敬

第18代甲南大学長
中井 伊都子

人物教育率先の理念をより高いレベルで実践する意欲と経験に満ちた新たな布陣

平生フィロソフィーを守り「変わるべき」との思いも受け止め ひと回り強く、新しい世紀のKONANへ

第14代甲南学園理事長 ― ながさか よしゆき

長坂 悦敬

2020年4月1日、第14代甲南学園理事長に、前甲南大学長の長坂悦敬が就任しました。学長時代の昨年4月21日、吉沢英成前理事長の下で100周年の節目を迎えてから1年足らず。折しも新型コロナウイルス感染症が世界で蔓延する中での新しいスタートは、約100年前にスペイン風邪が大流行する中で創立された本学園の歴史と重なります。まさに波乱の中での船出は、改めて「平生フィロソフィー」の重要性、中でも「常ニ備ヘヨ」の精神を再確認する機会ともなりました。新たに策定した甲南学園中期計画に込めた思い、これからの4年間でめざす姿を、長坂新理事長に聞きました。

ミディアムサイズ総合大学の強みを存分に生かす

学長時代に迎えた甲南学園100周年は、まさに本学にとっての重要なマイルストーンであり、自分たちが何者なのかを改めて確認する良い機会となりました。これを機に私たちは、次の100年に向けて新たなスタートを切ったわけです。

甲南大学は常に多くの方々が革新を紡ぎ続けてきました。神戸の地において、人物教育に率先して取り組む。その活動の質の高さを「ミディアムサイズ総合大学」の規模感が担保します。自然、人文、社会科学の3分野がそろった総合大学でありながらも学生総数は1万人を超えず、それでいながら3分野で大学院博士後期課程までを備え、卒業生は各界で実に活躍しています。

そんな中で当時学長として私は、学部の壁を超えて教育に横串を刺す全学教育の整備に力を入れてきました。その結果、立ち上げられたのが全学教育推進機構です。ここには20数名の専任教員が所属し、共通教育センター、スポーツ・健康科学教育研究センター、教育学習支援センター、リカレント教育センターの4センターを備えています。

図らずも今回のコロナ禍では、共通教育センター、教育学習支援センターが絶大なる力を発揮しました。3月の新学期授業対策会議で4月20日からのWebを活用した授業の開始を決定し、直ちに教育学習支援センターでオンライン教育用のガイドライン作成を開始。3月31日のFD講習会に間に合わせ、講習会には約300名の教職員が参加しました。そして、新学長のもと、教職員一丸となったコロナ禍への対応にもつながりました。

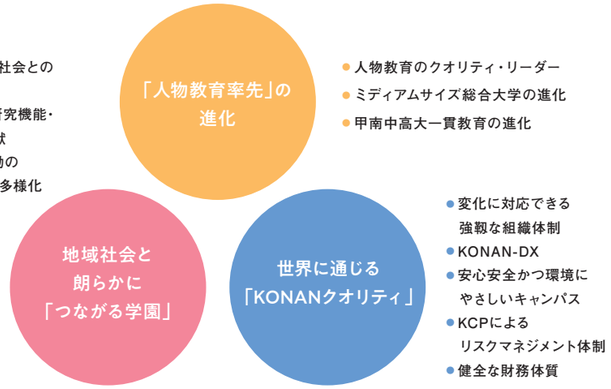
覚悟を決め、ひと回り強い組織をめざす

歴史を振り返れば、本学園が創立された100年前、世界および日本で、スペイン風邪が猛威を振るっていました。そんな苦難の時期にスタートした本学園が、1世紀を超えて再びパンデミックに遭遇したわけです。

この時期に理事長を拝命した私が改めて感じたのは、創立者である平生釟三郎先生の考え、『平生フィロソフィー』が全教職員に浸透していることが大事であるということです。平生釟三郎先生の思いを力に一致団結してコロナ禍の苦難を乗り越え、私たちもひと回り強くならなければなりません。

そのため私に与えられたテーマは、吉沢前理事長が取り組んでこられた思いをしっかりと受け止めたうえで、関係するみなさんの力を結集し、新しい世紀のKONANをつくりあげていくことです。約6年におよぶ学長時代に身にしみて感じていたのが「甲南はすごいぞ、もっともっとやれるぞ、伸びるぞ」との思いでした。その思いを継続し、次に向かう覚悟を決めています。

新しい世紀のKONANづくりでも柱となるのが『平生フィロソフィー』です。本学園で学んだ卒業生のすべてが、その継承者であり、本学園とかかわる地域の方々にも何らかの形でお伝えすべき哲学です。在学生はもとより、卒業生そして地域の方々を『平生フィロソフィー』でつなぎ、ともに豊かな人生を送っていただく。そのための結節点となる施設iCommonsができ、さまざまな方が大学に来られるようになりました。さらにリカレント教育センターを立ち上げ、人生100年時代の学びを支援し、卒業後もつながる大学を形にしていきたいと考えています。



平生フィロソフィーのもと、世界に通じるKONANへ

甲南学園中期計画では、「人物教育率先」の革新的進化を図る、世界に通じる「KONANクオリティ」をつくる、地域社会と朗らかに「つながる学園」を実現する、という3つのスローガンを打ち出しました。

人物教育のクオリティ・リーダーとして、ミディアムサイズ総合大学の進化を図る。平生先生の教育理念を実現する中高大一貫教育にさらに磨きをかける。平生先生の「常ニ備ヘヨ」を実践するためKCP（KONAN Continuity Plan）によるリスクマネジメント体制を整え、働き方改革を含むKONAN-DX（デジタルトランスフォーメーション）を進める。変化に対応できる強靭な組織をつくり、卒業生や社会との結節点としてリカレント教育や地域連携の充実を図るなど、地域の方々からそのご家族までと朗らかにつながる学園を実現することなど。

そんな甲南の強みや良さが、口コミで伝わっていくような流れもつくりたいと思います。在学生・在校生が「甲南はいいよ！」と事あるごとに口にし、教職員も「いま甲南は乗ってる！」と語り合う。そんなことばが自然に出るようになるには「人間は面白いか、有り難いかのいずれかでなければ、寄ってくるものじゃないよ」との平生先生のことばを実践する必要があります。

まさに「正志く、強く、朗らかに」という『平生フィロソフィー』を活動に落とし込んでいく。その成果として在学生や卒業生が「I am from the KONAN」「I am a member of the KONAN」と誇りをもって語り合う。その結果として〝人物教育で突出した学園〟との評価を確立するのが私の責務です。

Profile ～プロフィール～

大阪大学工学部卒業。同大学院工学研究科修士課程修了。博士（工学）。大阪産業大学経営学部助教授を経て、2001年甲南大学経営学部助教授、2003年同学部教授。フロンティア研究推進機構長、経営学部長、学長補佐、国際交流センター所長、ビジネス・イノベーション研究所長などを歴任し、2014年8月第17代甲南大学長（2020年3月まで）。2020年4月より第14代甲南学園理事長に就任。任期は2024年3月31日まで。

人物教育率先の理念をより高いレベルで実践する意欲と経験に満ちた新たな布陣

前例のない危機も乗り越える 100年かけて培われてきたKONANの土台の確かさ

第18代甲南大学長 ― なかい いっこ

中井 伊都子

2020年4月1日、第18代学長に法学部教授の中井伊都子が就任しました。経験したことのないコロナ禍のために入学宣誓式開催を断念し、Webを活用した授業に切り替えるなど、学生のみなさんをキャンパスに迎えることができない状況となりました。それでも教育の質を落とすことなく授業を実施していくために、教職員が試行錯誤しながらも一丸となって奔走してきました。そして創立者平生釟三郎の「常二備ヘヨ」の精神を糧に、今策定に取り組んでいるのが「KONAN U.VISION 2025」です。計画に盛り込む思い、これからの4年間でめざす新たな甲南大学の姿を、細やかな視点で取り組む中井新学長に聞きました。

100年間続いた学びの継続と質の担保

学長に就任する少し前から、日本全体が新型コロナウイルス感染拡大で大変な事態に陥りました。未曾有の危機に際し何より大切にしたのが、100年間続いてきた本学の学びの継続と質の担保でした。在学生はもとより、甲南大学で学びたい一念で本学を選んだ新入生たちに対して、いかに甲南の学びを提供し続けるのかが問われたのです。

極めて難しい課題に全教職員が一丸となって取り組みました。幸いにも大学の情報基盤が十分確立されていたため、授業は4月20日からすべてWebを活用した形態で行う運びとなりました。もちろんすべてがスムーズに運んだわけではありませんが、教員は悪戦苦闘しながらも全力で準備を進めました。また、職員のサポートもあり、Webを活用した授業へ無事に移行することができました。

たとえば、Webを活用した教育を滞りなく行うため、教育学習支援センターはきめ細かな手引書を作成してくれました。その結果、オンラインでのリアルタイム授業や、資料・説明の音声や映像を載せたデータを準備し学生が自由に視聴できるオンデマンド授業が可能になり、学びの継続と質の担保を継続することができました。

後期についてはまだ予断を許しませんが、「人物教育」を掲げる本学としては可能な限り対面授業に軸足を移しつつ、授業の規模や特性によって三密を避ける対策が難しい科目についてはWebを活用した授業を行いたいと考えています。

KONAN U.VISION 2025に込める思い

新学長として、2021年4月からの大学中期計画である「KONAN U.VISION 2025」策定に取り組んでいます。基本的には前学長のもとで進められてきた教育改革の歩みを止めることなくその発展的継承をめざしています。

「KONAN U.VISION 2025」では、ミディアムサイズ総合大学の利点を生かした人物教育をより強力に推し進めます。この中で、世界に通用する研究力と地域社会の発展に資する共働互助の力を教育に生かしてより良い社会の実現に持続的に貢献し、つながる力・つなげる力を生かして強靭かつしなやかに進化し続ける質の高い大学になることをめざしたいと考えています。

これを実現するための施策となる教学新機軸として、これまでの教育改革の成果を礎に、特色ある教育基盤の確立、甲南教育プログラムの発展、融合型グローバル教育の発展、地域連携の深化、世界に通じる研究力の活用、「KONANクオリティ」の確立・浸透の6つの軸を掲げ、このもとにKONANプレミア・プロジェクトを再編する計画を進めています。

特に、専門教育と共通教育の融合を図り、「人物教育」を実践する教育プログラムを整備することは、最も重要なテーマになります。このテーマのもと、学部専門教育の積極的な改革・改善を通じた教育の質向上・特色化と、この4月開設の全学教育推進機構を中心とした徳・体・知を育む一体的な共通教育の整備・充実を推進していきます。また、リカレント教育の実践・充実によって、本学の10万人にのぼる卒業生はもとより、地域の方々と学生が交じり合い・高め合い・つながり合う場を実現し、ミディアムサイズ総合大学の進化を図っていきます。

KONAN U.VISION 2025 ※計画中

ビジョン	教学新機軸
ミディアムサイズ総合大学の利点を生かした人物教育をより強力に推し進め、予測不可能な時代を「正志く、強く、朗らかに」生き抜く人物を育むことにより確固たる信頼を得る大学になる。	ミディアムサイズ総合大学の特色を生かした質の高い教育基盤の確立
	新たな時代に向けた甲南教育プログラムのさらなる発展
世界に通用する研究力と地域社会の発展に資する共働互助の力を教育に生かし、人物の育成と社会貢献を通じてより良い社会の実現に持続的に貢献する大学になる。	融合型グローバル教育の浸透と発展
	地域連携の深化と教育への展開
つながる力・つなげる力を生かして絶えず革新を重ね、時代の変化の中でも強靭かつしなやかに進化し続ける質の高い大学になる。	世界に通じる特色ある研究力の活用と展開
	「KONAN クオリティ」の確立と浸透

危機に直面し改めて実感した甲南の強さを生かす

コロナ禍は、学生たちにも大変な苦難をもたらしました。それを認めたうえでなお、通常ならできない経験ができたと、プラス面にも目を向けてほしいと思っています。キャンパスに来られず自宅で一人、パソコンなどを前に学問と向き合わなければならない状況が続きました。さぞ苦しかったと思います。そのつらい時期をも内面を豊かにする時間として活用してくれた、そんな甲南大生が多かったと信じています。

一方で、今年入学した1年生のことは、とても心配しています。本来なら大学生活が始まり、新しい仲間と新しい活動が始まっていたはずの新入生です。期待に胸をふくらませていた1年生のために、まず9月に学部ごとに新入生の歓迎イベントを実施する予定です。状況が許す限り、キャンパスに来てもらい、三密を避ける対策を徹底したうえで、新入生に語りかける機会を作りたいと考えています。

予想もしなかった困難な状況は、これまで本学が追求してきた大学教育のあり方や人物教育の意味などを改めて考える機会ともなりました。Webを活用した形態とはなりましたが、教育の質を確保しつつ授業を展開することができ、またその授業に真摯に取り組んでくれた、全教職員と学生のがんばりに心から感謝します。

本学にとっては卒業生一人ひとりが唯一無二の存在です。100年間、人物教育を唱え続けてこられたのは、卒業生のみなさんが「made in 甲南」の誇りを胸に社会で活躍し、輝いているからです。そんな輝く先輩方の流れを決して途切れさせないよう、甲南大学の教育をしっかり担っていくのが私の使命と心得ています。

Profile ～プロフィール～

京都大学法学部卒業。同大学院法学研究科修士課程修了。同大学院博士課程中途退学。専門は国際法。神戸大学大学院国際協力研究科助手を経て、1998年甲南大学法学部助教授、2002年同学部教授。国際交流センター副所長、法学部長、キャリアセンター所長、副学長などを歴任し、2020年4月第18代甲南大学長に就任。任期は2024年3月31日まで。

特集
Special issue

甲南学園の新型コロナウイルス感染症対策

世界中で感染が拡大している新型コロナウイルス。本学園でも、
授業や行事などさまざまな影響を受けていますが、日々状況が変化する中、学園全体で対策にあたっています。
今号では、「甲南学園新型感染症対策本部」の谷向 豊総務部次長に感染症対策を、
「2020年度新学期授業対策会議」の佐藤泰弘議長に大学の授業面での取り組みを、
中高の感染症対策や授業への新たな取り組みについて、学園の現在の姿をお伝えします。

※掲載内容は取材時のものです。最新の情報はWebサイトをご覧ください。

新型コロナウイルス感染症（COVID-19：coronavirus disease 2019）

2019年の終わりに中国湖北省武漢市付近に発生したのを皮切りに、またたく間に世界中に感染が拡大し、2020年3月11日には世界保健機関（WHO）が、新型コロナウイルス感染症の流行を「パンデミックとみなせる」と発表。日本国内では、4月7日に東京、大阪、兵庫など7都府県に緊急事態宣言が発出され、同16日には対象が全国に拡大、解除まで約1か月半にわたり自粛期間が続く。8月末時点で、国内の感染者数は約7万名、死亡者が1,299名、世界では感染者が約2,500万人を超え、死者数が約84.7万人に上る。

【大学】 【高中】

新型コロナウイルス感染症に関する最新のお知らせは、Webサイトをご覧ください。

KONAN TODAY
2020 Autumn | No. 58

CONTENTS

01 特集［就任インタビュー］
人物教育率先の理念を
より高いレベルで実践する
意欲と経験に満ちた新たな布陣
03 第14代甲南学園理事長 長坂 悦敬
05 第18代甲南大学長 中井 伊都子

07 特集
甲南学園の
新型コロナウイルス感染症対策
09 甲南学園新型感染症対策本部
総務部次長 谷向 豊
11 2020年度新学期授業対策会議 議長
甲南大学 副学長 佐藤 泰弘
17 高中 Topics
甲南高等学校・中学校の新型コロナウイルス感染症対策
日々急変する事態にも、生徒ファーストを念頭に対応
19 平生釟三郎日記刊行記念シリーズ 特別編
スペイン風邪の猛威
21 なるほど!甲南アカデミア 経営学部 経営学科 教授 奥野 明子
テレワークの課題をひもとくと組織全体、
ひいては社会全体の課題が見えてきます
23 さまざまな分野の第一線で活躍する卒業生
It's KONAN Style
リア・カフェ オーナー 松山 里絵 さん
25 リカレント教育プログラムが始動
世界が激動する今だからこそ個人の質が問われている。
大学で「学び直し」しませんか？
27 KONAN TOPICS
甲南学園から“旬”のニュースをお届けします
28 新任退任教職員紹介
29 ［体育会座談会企画］甲南大学×学習院大学
どんな環境でも前向きに、すべきことを！
KONAN FORUM
課外活動成果報告／新刊一覧 ほか
裏表紙 Campus Photo

表紙の1枚
放課後の校内
（甲南高等学校・中学校）

特集　甲南学園の新型コロナウイルス感染症対策

教育・研究を止めない そして学生のケアを重点に 即決・即実行で対応してきました

学園を横断する組織として、2月19日にいち早く設置された「甲南学園新型感染症対策本部（以下、対策本部）」。実務部隊として動いてきた谷向 豊総務部次長にどんなことを重視し、どう対応にあたってきたか、今後の課題も併せて語ってもらいました。

甲南学園新型感染症対策本部
総務部次長　谷向（たにむかい） 豊（ゆたか）

混乱を避けるため情報を精査し、発信

国内で新型コロナウイルスの感染事例が相次ぐ中、2月18日に文部科学省から教育委員会や学校法人に対し、学内で感染者が発生した場合の対応について事務連絡が発出され、甲南学園はその翌日に対策本部を設置しました。以前から新型インフルエンザ等対策マニュアルを策定していたため、理事長・学長・校長を本部長とし、早急に対策本部を立ち上げました。

実務部隊として、まず私たちが取り組んだのは、混乱を招くことのないよう、文部科学省や兵庫県から届く膨大な情報を素早く精査し、情報発信することでした。大学では、2月20日にはWebサイトに新型コロナウイルス感染症に関する内容を集約したページを立ち上げ、随時最新情報を発信。学生向けポータルサイト「My KONAN」においても、特に学生に関連する内容を中心にきめ細かに情報を出すよう努めました。

そして対策本部における喫緊の議題は、目前に迫る学位記授与式（卒業式）や入学式をどうするか、そして新学期に向けた健康診断やガイダンスといった行事をどうするかということでした。学生のためになんとか節目の式典は開催したいというのが対策本部の思いでしたが、事態は深刻さを増すばかりです。課外活動の合宿やゼミ旅行の禁止を決定するなど、段階的に活動を自粛せざるを得ないと判断しました。そして大学では2月28日に学位記授与式の一堂に会する式典を取りやめ、縮小実施を決定しました。ただ、細心の注意を払ったうえで、キャンパスでの学位記の受け取りは可能としました。学生生活最後に同級生との交流の場を提供でき、本当に良かったと思います。

このとき対策本部のもう一つの大きな議題は、海外渡航への対応でした。中国の感染者が急増する中、中国・韓国からの帰国を促し、さらに学生・教職員の中国への渡航禁止、帰国後の14日間自宅待機を指示。海外への送り出しを原則禁止し、感染リスクを可能な限り抑えるよう決定しました。

刻々と変わる状況下 素早い判断・発表を

感染が拡大した3月・4月は、対策本部でも頻繁に会議を開きました。とりわけ3月3日にアメリカのトランプ大統領が日本を渡航規制強化対象と発表した際は大きな議論となりました。当時はまだ社会全体の危機感は高くなかったものの、海外の状況が急激に悪化することを念頭に、3月4日に北米地域、17日にはイギリスへの留学プログラムの中止を決定。場合によっては学生の学びの機会を奪うことにもなりかねない非常に難しい判断でしたが、学生の安全を最優先し、渡航中止をお願いしました。

3月16日には、教育を止めない方策を模索するため、佐藤泰弘副学長を議長とする「2020年度新学期授業対策会議」を設置。対策本部と連携し、スピード感をもって対応した結果、Webを活用した授業の実施をいち早く決定。「My KONAN」のサーバを増強するなど1か月弱で準備を整えた結果、サーバダウンなどの影響がほとんどなく、授業を開始することができました。以後、大きなトラブルはありません。

4月1日、2日は新入生向けに学生証などの配付を岡本キャンパスで実施。甲南大生になった気持ちを少しでも感じてほしいとの思いもありました。当日は短時間で必要書類を渡す形式をとるなど、厳密な接触防止策をとりました。

そして4月7日、兵庫県・大阪府などに緊急事態宣言が発出されたことを受け、翌日には学生をキャンパス内原則立ち入り禁止とするなど、日々変化する状況や国の動向を受けて素早い判断・発表を行っていきました。また教科書の販売を担う甲南大学生協では、対面販売を中止とし、Web注文後に郵送する対応に変更しました。

新型コロナウイルスに関する主な動き（概要）

1月16日
［厚労省］●日本で1例目の患者が発生と発表

1月29日
［外務省］●中国湖北省が感染症危険情報レベル3に引き上げ
［甲南］●学生・教職員に対し、海外渡航の事前報告要請、一般的な感染症への注意喚起

2月18日
［文科省］●「学校における感染症対策、生徒等に感染症が発生した場合の対応」発出

2月19日
［甲南］●甲南学園新型感染症対策本部設置、教職員へ再度注意喚起、対策マニュアル配布

2月20日
［甲南］●Web上での情報発信開始
●学生・教職員の中国（感染症危険情報レベル2地域）への渡航を禁止、帰国後の14日間自宅待機指示

2月21日
［甲南］●学内行事の原則延期、課外活動の合宿やゼミ旅行の禁止、懇親会の自粛要請

2月27日
［甲南］●学内行事の対応レベルを引き上げ（30名程度を超えるものや濃厚接触が想定される行事の中止）

2月28日
［政府］●全国の小中高へ休校要請
［甲南］●大学 学位記授与式の一堂に会する式典中止を決定
●教職員の勤務配慮周知

3月1日
［兵庫県］●西宮市初の新型コロナウイルス感染者発生
［甲南］●西宮キャンパスに学生立ち入り禁止措置（3月4日まで）

3月2日
［甲南］●キャリアセンターによる3月以降の学内企業セミナー中止
●職員の出張中止または延期要請
［外務省］●イタリアが感染症危険情報レベル2地域に

3月3日
［兵庫県］●神戸市初の新型コロナウイルス感染者発生
［甲南］●大学 クラブ・サークル活動禁止（3月15日まで）
●高中 休校（3月14日まで）
［外務省］●トランプ大統領、日本が渡航規制強化対象の旨を明言

3月4日
［甲南］●北米地域への奨励留学・語学プラス交換留学・認定校留学（JSAFプログラム）の中止決定（5月2日出発まで）

3月5日
［甲南］●大学 一般入学試験（後期日程）実施

3月9日
［外務省］●日本政府、中韓に発給済みの査証（ビザ）効力停止

3月11日
［甲南］●令和2年度入学宣誓式、授業開始までのガイダンスなど中止決定
［WHO］●「新型コロナウイルスはパンデミックとみなせる」との見解

3月12日
［兵庫県］●神戸市、中学を25日まで、高校を23日まで休校
［甲南］●大学 クラブ・サークル活動禁止の延長決定（3月23日まで）

3月13日
［甲南］●高中 終業式（卒業式）の延期と休校延長（3月23日まで）

3月16日
［甲南］●大学「2020年度新学期授業対策会議」設置

3月17日
［甲南］●第1回「2020年度新学期授業対策会議」実施

3月18日
［外務省］●全世界の感染症危険情報を「レベル1」に

3月19日
［政府］●専門家会議「感染拡大している地域は自粛要請の必要性を検討、一定期間、学校を休校にすることも一つの選択肢。収束に向かっている地域ではリスクの低い活動から解除を検討」との提言

注意喚起や発表情報を集約した特設ページをWebサイト上に設置

感染拡大の予兆が見られるといち早く、Webサイト上に特設ページを設け、コロナ関連の情報を集約し、掲載しています。

学生の心のケアについて

学生相談室が特設サイトを立ち上げ、自粛期間に心にストレスを抱える学生をケアしました。また、キャンパスへの立ち入り禁止期間においても、電話やオンラインの遠隔、また完全事前予約制での対面相談を行いました。

海外留学・渡航について

新型コロナウイルス感染症の世界的な流行により、留学中の学生には帰国指示、留学予定の学生には渡航中止をお願いするなど、大きな影響を受けました。日本に留学中のYear-in-Japan Program（以下、YiJ）留学生も、当初は5月末までの留学期間を切り上げ、3月から4月に順次母国へ帰国しています。帰国後のYiJ留学生へのサポートとして、いち早く教員が動き出し、3月末にはオンラインでの授業を開始したため、帰国したYiJ留学生も母国にて授業を継続しました。

海外から日本へ帰国した学生者数	渡航前に留学が中止となった学生者数	日本から海外へ帰国したYiJ留学生者数
17名	30名	26名

今後へ向けての対応

世界の感染状況を見極めつつ、2021年度前期出発の留学プログラムの募集を開始しています。途中帰国や渡航中止、留学希望の学生に対しては「学内留学」と称して、オンライン上で海外協定校の学生とコミュニケーションを取ることができるオンライン交流プログラムや、留学経験のある学生と英語で取り組むアクティビティ（LOFTオンライン）、LOFTで活躍するLOFTアシスタントにオンラインで質問・相談ができる「LOFTともだちステーション」などさまざまな機会を提供しています。

※留学相談については、国際交流センターにて随時メールや電話、オンラインテレビ会議システムZoom(ズーム)で対応し、サポートしています。

学位記授与式を縮小実施

国内感染者数の増加や感染対策にともない、卒業生が一堂に会する式典を取りやめ、規模を縮小し、博士課程修了者、各学部・研究科の総代による学位記授与式を執り行いました。当日の様子は、インターネットでライブ配信し、参列を見送った卒業生たちもかけがえのない時間をともに過ごしました。

学位授与者数

学部生……2028名　大学院生……64名
当日の出席者……26名

各学部・研究科の総代……13名
博士課程修了者……4名
学長表彰…7名、卒業生答辞…1名、在学生送辞…1名

希望者には学位記を郵送

通常、学位記授与式当日に受け取りができなかった卒業生は教務部（各キャンパス）で受け取り可能ですが、今回、希望者には学位記を卒業記念品とともに郵送しました。

Webを活用した授業を決定 全学が連携して前期を乗り切る 対面との使い分けが今後の課題

前期の授業をどう進めていくかを迅速に立案、実施していくために、3月16日「甲南学園新型感染症対策本部（以下、対策本部）」のもと、「2020年度新学期授業対策会議（以下、授業対策会議）」を設置。議長である佐藤泰弘副学長にお話を伺いました。

2020年度新学期授業対策会議 議長
甲南大学 副学長 佐藤（さとう） 泰弘（やすひろ）

学生のためを第一義に引き続き対応に注力

対策本部が重点を置いてきたのは、「教育・研究を止めない」こと、そして学生生活支援（心の健康、キャリア、経済面など）です。状況が次々と変わり即決・即対応が迫られる中、決断の要となったのが「いま、この判断が将来に向けて学生のためになるのか」です。さまざまな意見がある中、対策本部のぶれない軸でした。

学生の心のケアについては、キャンパスへの立ち入りが制限される中でも、学生相談は受け付けている旨を発信し、学生相談室を閉じることはありませんでした。また学生相談室では、コロナ禍で不安を抱えている学生を支援する「特設サイト」もWebサイト内に立ち上げました。

キャリア支援については、6月下旬に学内企業説明会を再開し、7月末現在、オンラインテレビ会議システム「Zoom（ズーム）」や電話による個別相談のほか、4年次に対してキャンパス内での模擬面接を行っています。経済的なケアについては、対策本部で一律5万円支給を決定し、Webを活用した授業受講のための環境整備をサポートしました。また大学同窓会、父母の会からの多大な支援を受け、両会のサポートのもと「甲南大学2020年度特別給付奨学金（30万円）」を設けました。

学内の感染予防対策は、引き続き細心の注意を払っています。正門やiCommonsなどの各施設や各キャンパス入口で検温をできるようにし、体調不良者のキャンパス内への入構を制限。マスク着用・手洗い・消毒、三密回避はもちろん、ガイドラインに基づいた衛生管理を徹底しています。清掃業務を委託している甲南学園サービスセンターの多大なご協力により、キャンパス内の施設は常に清潔に保つことができています。

こうしてなんとか前期を終えることができたのは、対策本部を中心に、各部門と綿密に連携できたからだと思います。加えて、教職員が方針に前向きに協力していただけたことも非常に大きいです。また対策本部が指針を「示す」と同時に、学内の懸案事項に「答える」、情報のハブ機能を果たした点も混乱防止に有効だったと考えています。

後期に向けては、クラブ活動など、授業と同等に重要な「学生生活」についての活動再開が大きな課題です。たとえば文化系クラブの新入生加入率は大変厳しい状況が続いており、体育会系クラブも段階的な活動再開を模索している状況です。このような状況は、少なくとも今後数年続くと想定し、「新しい生活様式」のもとでどういう形で再開・継続するかを探っています。さらに、2021年度入学試験も大学の大きな課題であり、対策本部では新型コロナウイルス感染症対策の面で引き続き動いていきます。予断を許さない状況が続きますが、今後も「Student First」を第一義に、関係部門と連携して取り組んでまいります。

学生・教職員の安全と学修機会を守るための決断

大学執行部の一員として、すでに学位記授与式・入学宣誓式などの危機対応にあたっていた私は、吉沢理事長（当時）・長坂学長（当時。現理事長）の要請を受け、教学担当の副学長として授業対策会議の議長を担当することになりました。

すでに入学宣誓式の中止は決まっていましたが、4月8日開始予定の前期の授業をいつ、どのようにして始めるか、大学の方針として早急な決定・対応が求められました。そのときはすでに感染拡大が進み、通常開始ができないことは明らかでした。学生の学修機会を確保するというだけではありません。たとえば開講が遅れたために前期卒業予定の学生が卒業できなくなることは絶対に避けなければならない。

初回の授業対策会議（3月17日）は、新学期の授業開始を4月20日に延期すること、最初の2週間は30名以下の事前登録科目を対面で行い、それ以外はWeb活用授業を行うことなど、新学期の開講方針を決めました。この段階では緊急事態宣言が出されておらず、3週目以降は状況を見て柔軟な対応策をとれるようにと、対面授業に希望をつないでいました。Webを活用した授業の実施は、対面授業の実施可能性やリスクなどを検討していたおかげで、迷わず判断できました。全学生が「My KONAN」で履修

3月19日
［政府］●換気が悪い密閉空間、人が密集している、近距離での会話や発声の3条件が同時に重なる場所や場面を避けることが重要との提言
［甲南］●4月末まで教職員の海外渡航を禁止、感染リスクが高い国内出張の自粛要請

3月20日
［甲南］●高中 21日実施予定の終業式（卒業式）を中止
●春期オープンキャンパス中止

3月21日
［甲南］●大学 クラブ・サークル活動禁止の再延長決定（3月31日まで）

3月23日
［甲南］●大学 授業開始を4月20日とすることを発表

3月25日
［甲南］●令和元年度学位記授与式の縮小実施、学位記の配付
［外務省］●全世界に対する感染症危険情報「レベル2」を発出

3月26日
［甲南］●教職員の首都圏への出張を極力自粛
●全学生に対し、海外渡航禁止を要請
●4月20日授業開始を想定した大学の取り組み概要を協議、学年暦の変更

3月31日
［甲南］●Webを活用した授業のための学内向けFD講習会実施（4月6日も実施）

4月1日
［甲南］●入学宣誓式・学内ガイダンスの中止
●学内行事を原則自粛または延期
●大学 クラブ・サークル活動禁止の再延長
●大学 新入生向けに学生証など配付（4月2日も実施）

4月6日
［甲南］●新型コロナウイルス感染症に対する健康管理マニュアル周知

4月7日
［政府］●兵庫県・大阪府等に緊急事態宣言の発出（5月6日まで）
［甲南］●大学 教科書対面販売を中止、郵送に切り替え
●高中 5月6日までの休校、入学式・始業式の中止

4月8日
［甲南］●学生のキャンパス内原則立ち入り禁止（8月1日より立ち入り制限へ）
●大学教員が授業実施を除いて自宅待機（6月21日まで）
●大学生協食堂の営業停止（6月5日まで）
●キャリアセンターのオンライン個別相談開始

4月11日
［甲南］●職員の出勤率を原則30%に設定

4月13日
［甲南］●高校三年生のオンライン授業開始

4月16日
［政府］●緊急事態宣言の対象が全国に拡大

4月17日
［甲南］●高校二年生のオンライン授業開始

4月20日
［甲南］●大学 Webを活用した授業の開始（7月末まで）

4月27日
［政府］●「特別定額給付金事業」（10万円）公表

4月30日
［甲南］●Webを活用した授業の受講にあたって「学修環境整備等支援費（大学5万円）」支給、大学の学費納付猶予期限を8月20日まで延長を発表

5月1日
［甲南］●高中 休校を5月31日まで延長

5月7日
［政府］●緊急事態宣言の延長（5月31日まで）
［甲南］●大学 図書館の郵送での本の貸出実施と電子書籍の利用拡大
●オンライン授業の学習環境整備補助（補助費）（高中1万円）支給発表
●職員の出勤率を原則20%に設定

5月11日
［甲南］●高中 全学年オンライン授業移行

【甲南大学Welcome Movie 2020】

【中井学長メッセージ】

入学宣誓式を中止。中井学長より、新入生へのメッセージを配信

新入生を迎える予定であった4月1日、Webサイトに中井学長のメッセージ動画と「甲南大学Welcome Movie 2020」を公開。学長は、新しい甲南ファミリーの健康を気遣いながら、早く元気でお会いしましょうと新入生にメッセージを贈りました。また、Welcome Movieでは、公式キャラクター「なんぼーくん」のおすすめスポット紹介ほか、さまざまな教員、学生からのメッセージで、登学できない新入生へキャンパスの様子を伝えました。

就職活動を中心としたキャリア支援体制

キャリアセンターでは、学生のキャンパス立ち入り制限が始まった4月以降、大学に来なくてもキャリアサポートができるよう、体制を整えてきました。個別相談はオンラインで実施できるようシステムを構築。オンラインの個別相談だけではなく、電話やメールでも随時問い合わせに対応しています。また、本学に届く求人は独自の求人検索システムでどこからでも検索することが可能です。3年次以下の学生に向けては、インターンシップの申込手続きや事前研修のオンライン化のほか、キャリアガイダンスをはじめとする各種講座のオンデマンド配信を行っています。キャンパスへの立ち入り制限が緩和された6月以降は、就職活動中の学生を対象に、学内で企業説明会を開催。約10社の企業をお招きし、のべ約120人の学生が参加しました。そのほか、模擬面接も再開しています。キャリアセンターは学生のみなさんが納得できる進路を選択できるよう、今後も全力でサポートしていきます。

学生への各種支援

学修環境整備等支援費 ※一律支給	5万円	Webを活用した授業を受講する環境整備のための費用
甲南大学2020年度 特別給付奨学金	30万円	家計急変により修学が困難になった学生への奨学金　※申請資格を満たす者

「常ニ備ヘヨ」～絆を深め、支え合おう！～

このたびの「特別給付奨学金」支援につきまして、同窓生からは「交流が重要な目的の一つである同窓会の活動に変化が強いられる中、学生支援予算を増やす舵を切ったことは英断であり、力を発揮し支えることができたら何より」などの意見をいただきました。この混迷の時代にどう向き合っていくのか。今改めて、平生釟三郎先生が遺してくださった「常ニ備ヘヨ」のことばを胸に刻みたいと思います。

甲南大学同窓会 会長 丹羽 一郎さん

甲南大学2020年度 特別給付奨学金について

コロナの影響により、依然オンライン授業が中心となり、学生諸子の通学もならない状況が続いております。このたび父母の会より特別給付奨学金に協力させていただくこととなりました。もとより、みなさまからお預かりしております、浄財でございます。これで学生たちの不安が拭われるわけではありませんが、一助として安心して勉学・人間づくりに励んでいただきたいと願っております。

2020年度父母の会 会長 大垣 利哉さん

特集　甲南学園の新型コロナウイルス感染症対策

登録を行っている実績が、判断の裏付けになりました。

第2回会議（3月26日）では学年暦を変更し、使用教室数のシミュレーション、授業実施における感染症対策などを検討しました。この時、ハンカチマスクの作り方、消毒方法を実演し、Webを活用した授業に向けたFD講習会の実施も決めました。

第4回会議（4月7日）は、緊急事態宣言の発出にともない、30名以下のクラスでもWebの活用を決めました。しかし人物教育には対面授業が重要であるとの考えから、対面授業の再開への希望を残していました。Web授業の延長を重ね、前期終了までWebを活用した授業の継続を決めたのは第6回（5月21日）でした。それと同時に緊急事態宣言解除後の緩和措置についても検討を始めています。

Webの活用に向けた準備と対面授業の一部再開も検討

Webを活用した授業を実施するツールとしては、すでに導入していたOffice 365に加え、利便性の高さなどからZoomの採用を決定。Zoomの導入にあたっては、安全に使用するためのガイドラインをとりまとめ、学生・教職員に発信しました。

Webを活用した授業では、教育方法の専門家と情報系に強い教職員を擁する「教育学習支援センター」が大活躍しました。同センターは、4月に発足した全学教育推進機構のもとに置かれており、授業対策会議と円滑に連携できました。動画による解説やメールでの個別相談など、学生の学びを細やかに支援しました。同時に、教員の授業をサポートするため、学内に簡易スタジオを設けたり、オンデマンドの授業づくりの相談に乗ったりと、教員への支援も担いました。

Web授業を開始するにあたり最大の課題は、学生・教員のインターネット環境が不均一な中で、大量のデータを送受信しながら授業が円滑にできるのか、という点でした。大学の回線増強は迅速に対応できました。しかし自宅に通信環境が整っていない学生やパソコンをもっていない学生もいます。そこで全学生へのアンケートを実施してパソコンの貸与を行うなど、学生への経済的支援を進める対策本部と歩調を合わせ、課題解決を探りながら対応していきました。

緊急事態宣言が延長されるなど日々状況が変わる中、「対面授業をいつから始めるか」も授業対策会議における重要な議題でした。特に理系学部の実験はオンラインでは難しいことから、4年生は卒業実験ができず、大学院生は論文も書けないといった状態であったからです。また入学宣誓式もなかった1年生に甲南大生としての自覚をもってもらうためにも、登学して学ぶ機会の確保も重要です。

そこで5月25日の緊急事態宣言解除後は、まず大学院生の研究指導、ついで4年生と1年生の一部を登学可能とするなど、優先順位をつけ段階的に一部の対面授業を再開しました。ただしあくまでもWebを活用した授業が原則であり、ガイドラインのもと教員が申請し、対策本部が許可する形での再開としました。

前期の知見を集約し後期の課題に対応

前期は原則Webを活用した授業を行い、試験についてもガイドラインのもと一部をWeb上で実施し、ほぼ問題なく終えることができました。学生たちは初めての授業形態によく対応し、積極的に学んでくれました。

教員がWebの特長を活用した事例も多数あります。大教室で行う知識伝達型の講義はWeb授業に適しているのではないか、Web授業は繰り返し学習ができるなど、新しい授業形態の可能性も見えてきました。

前期を振り返るため、学生や教員を対象に行ったアンケートでは、幸いなことに前期授業への満足度は例年に遜色ありませんでした。このアンケートも含め、前期に蓄えた知見を集約・共有して、後期に向けたより良い授業実施の方針を考えているところです。

一方、反省点もあります。たとえば、各授業で課題が出るために全体として課題が過多になることや、学習のリズムを維持するのが難しくなることです。Web授業における改善点については、大学として今回の経験をトータルに考えなければならないと認識しています。

今後、高度情報化社会が進展し、パンデミック対策のみならず、大学教育においてWebを活用した授業が増えていくとも考えられます。重要なのは、Webと対面の適性を見極め、両方を機能的に使い分けて教育効果を担保することではないでしょうか。

今回、何より私たちが再確認したことは、「人物教育」を掲げる本学において、いかに対面授業が大切であるかです。知識を身につけるだけならWeb授業でも可能ですが、人物教育はそうはいきません。ことばにならない思いを伝え、学生個々のしぐさやことば遣いから個性をつかみ可能性を伸ばしていく。シラバスには記されていない日々の教育、つまり学生と教員とが互いに教え学ぶという関係が、人物教育を支えているのだと改めて気づきました。

後期については原則として対面授業を実施する方針を立てましたが、感染症対策を考えるならば、Webを活用した授業を併用していくことになります。時々の状況に柔軟に対応できるような授業対策を進めていきたいと考えています。

Webを活用した授業とは

普段学生が使用する<My KONAN>をベースにした授業は、授業内容に合わせて「オンデマンド授業」と「リアルタイム遠隔授業」の2つの形態で実施しました。

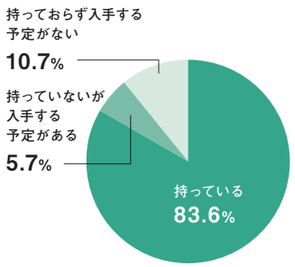
受講方法の種類	オンデマンド授業	リアルタイム遠隔授業
実施日程・期間	各授業科目の指定する期間（随時）	時間割の曜日・時限（または指定の日時）
受講方法	講義資料を読み動画を視聴し、課題、テストなどに取り組みます。	オンラインテレビ会議システム「Zoom（ズーム）」などにアクセスして受講します。

Zoomとは？　パソコンやスマートフォンを使って、オンラインでミーティングができるアプリケーション。複数名がリアルタイムで映像と音声でコミュニケーションできるほか、資料の共有やチャット機能を用いて質問なども可能なツール。

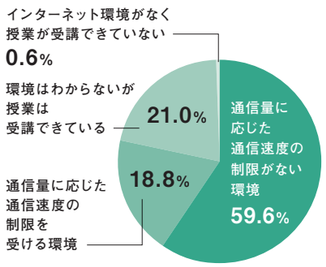
Webを活用した授業に関する受講状況調査を実施

アンケート実施期間：2020/05/11（月）～05/18（月）
対象者：8,697名（全学年）、回答者：7,556名、回答率：86.9%

授業開始後の約3週間後を目途に、My KONAN上で学生を対象にアンケートを実施しました。「インターネット環境がなく、授業が受講できていない」と回答した層やパソコンを保有していない層に個別に確認を行い、支援が必要と申し出た学生に、パソコンの貸出や大学内の講義室を一部開放するなどの対応を行いました。



［パソコンの保有状況］



［インターネット環境］

感染予防策を徹底し、一部対面授業を再開

6月8日、大学で一部対面授業を再開しました。キャンパスへの入構時、正門で検温や手指消毒を行い、ICカードリーダーに学生証をかざし、入構を確認。各施設の入り口にも、消毒液とICカードリーダーを設置しています。

教室では、ソーシャルディスタンスを確保し、全員マスク着用のままで授業を実施。教室内には自分で座席と机を消毒できるよう、アルコール消毒液とペーパータオルを設置し、感染予防策を徹底しています。

5月16日
［兵庫県］●県内大学への休業要請解除

5月19日
［文科省］●「学びの継続」のための『学生支援緊急給付金』制度発表

5月21日
［政府］●兵庫県に対する緊急事態宣言解除
［甲南］●前期は原則Webを活用した授業を継続すること、一部科目については、段階的に大学での対面授業を実施することを告知

5月25日
［政府］●緊急事態宣言の全面解除

5月29日
［甲南］●大学同窓会・父母の会の支援により「甲南大学2020年度特別給付奨学金（30万円）」を発表
●高中 新型コロナウイルス感染症の影響にともなう家計急変特別支援奨学金（20万円）発表

6月1日
［甲南］●Web環境を理由としてほとんどの授業が受講できていない大学生への支援開始（PC貸し出し、大学の教室開放など）

6月4日
［甲南］●高中 授業を段階的に再開

6月8日
［甲南］●大学 一部対面授業再開
●大学 生協の一部営業再開

6月10日
［甲南］●大学 図書館の限定開館（大学院生、学部4年次、研究生、教職員を対象）

6月15日
［兵庫県］●兵庫県下の公立中高、通常授業を再開

6月16日
［兵庫県］●県内のコロナウイルス新規感染判明者が1か月間ゼロに

6月22日
［甲南］●職員の出勤率を70～80%に設定
●授業・研究活動に必要な出勤を除き、不要不急の出勤や国内出張の自粛要請

6月25日
［甲南］●4年次の学内企業説明会再開

7月1日
［甲南］●限定的に課外活動団体（体育会）の活動を再開
●4年次の模擬面接再開

7月14日
［甲南］●自宅にプリンタがない学生を対象に、コンビニエンスストアでのネットワークプリントサービス開始

7月17日
［甲南］●2府1県の1週間の新規感染者数が1日平均50人以上を超えたため、六甲アイランド体育施設でのすべての活動を停止

7月22日
［政府］●需要喚起策「GoToトラベル事業」開始

7月26日
［兵庫県］●新たに49人が感染し、4月以来の過去最多更新（当時）

7月27日
［甲南］●Webを活用した前期試験の実施（8月3日まで）

7月28日
［甲南］●2021年度前期出発「交換留学」「語学プラス交換留学」派遣留学生の募集開始

8月3日
［甲南］●高中 終業式実施

8月4日
［甲南］●夏期休業（大学9月24日、中高8月31日まで）

8月29日
［甲南］●夏期Webオープンキャンパス開催

9月1日
［甲南］●高中 2学期の始業式実施

9月25日
［甲南］●大学 後期授業再開予定

※9月1日現在。一部抜粋し掲載（当時の内容を含む）。

Zoomで学生たちにいろいろ聞いてみました

- ▶知能情報学部 3年次 団野 和貴（だんの かずき）さん
- ▶知能情報学部 3年次 上田 省吾（うえだ しょうご）さん
- ▶経営学部 2年次 深山 望彩（みやま のあ）さん
- ▶経済学部 2年次 柳 優里（やなぎ ゆり）さん

キャンパスへの立ち入り禁止や、初めてのWebを活用した授業･･･、これまでに経験したことのない日々を送った学生たち。前期授業を終え、夏期休暇中の8月末、普段授業をサポートしてくれているラーニングアシスタントを務める4人の学生に、Zoomで今の状況を聞いてみました。

Q ステイホーム期間や現在の生活スタイルは？

A. **団野さん**：基本的には自宅にいます。勉強したり、リフレッシュに近所を散歩して過ごしています。

深山さん：海外留学や災害地のボランティアなど、コロナが落ち着いたときに行動を起こすために、英語のトレーニングや情報収集、資格取得の勉強など、充実した時間を過ごしていました。今は夏休みなので、アルバイトを再開しています。

柳さん：ステイホーム期間は、普段時間が取れずできていなかったことをしていました。趣味のお菓子づくりや九州にいる姉との電話など･･･。今はアルバイトや習い事など、必要最低限の外出はしますが、外食は避けています。

Q 部活やサークル、アルバイトはどうかな？

A. **上田さん**：講師のアルバイトをしている塾が、コロナの影響でオンライン授業になり、担当する授業枠が増えました。週4日ペースでがんばっています。大学自治会で委員長を務めていますが、これまでは３キャンパス合同の連絡手段がなかったが、今回を機にオンラインの定例会をするようになり交流が深まっています。また、他大学との交流イベントもオンラインになったことで、かえって参加しやすくなりました。

団野さん：大学生協でアルバイトをしていましたが、キャンパスへの立ち入り禁止以降休止中。生協主催の新入生向けオンラインパソコン講座の支援活動も終わり、今はバイトなしの状態。

深山さん：柔道部のマネージャーをしているのですが、全国大会も中止に。部員は各自でトレーニングを続けながら、定期的なミーティングはオンラインで行っています。

Q みんなとのコミュニケーションはどうしてた？

A. **団野さん**：コロナ前は、授業後に友だちとたわいのない話をし、そうした何気ない時間がすごく貴重だったと感じています。今は自分から声をかけ、LINEなどで友だちと雑談する機会を設けるようにしています。インターンシップの情報なんかもWebで調べるのと人から直接聞くのでは情報が異なるから、友だちとのコミュニケーションは大切。

柳さん：電話やZoomを使って、久しぶりの友人との時間を楽しみました。オンラインはコミュニケーションを取らないよりはいいのですが、実際に会うことに勝るものはないなと感じています。

Q Webを活用した授業について聞かせて？

A. **上田さん**：オンデマンド授業は自分のペースで受講できるから時間が有効に使えました。プログラミング実習も問題なくできたけど、パソコンのスペックが低かった子は苦労したようで、先生からパソコンを借りたという話を耳にしました。また、先生によって課題提出の形式が異なるため、対応が大変でした。

柳さん：企業の社長を務める卒業生の方から課題をいただき、グループワークで解決策を考える「プロジェクトゼミ」が印象的でした。対面でもディスカッションするのは大変なのに、すべてオンラインで苦労しましたが、最後は納得がいく成果を出せました。オンライン授業は通学がない分、時間の余裕がもて良かったのですが、パソコンと向き合う時間が長く、体力的にも精神的にも辛い時期がありました。

Q ラーニングアシスタントの活動は？

A. **深山さん**：慣れない授業で、最初は1年生も私も緊張していたけど、徐々に互いに緊張せず友だちのように接することができました。当初、週２コマのサポートが、活動を通して自分を見つめ直す機会になり、楽しくて週６コマに。時間を有効に使えるオンラインだからこそ増やすことができたと思います。あと、サポートした1年生の履修登録の相談にも乗ることもありました。

団野さん：オンラインでのファシリテーションには苦労しました。雰囲気をつかみとれず失敗したことも。ビデオオフで学生の顔が見えない中でやっているときは、「対面でしたい！」とつくづく思いました。

Q コロナ禍が終息したとき、いちばんやりたいことは？

A. **団野さん**：やっぱり大学に行きたいです。大学があったから、勉強はもちろん、ジムで運動したり、帰りに遊びに行くこともできた。コロナでそうした生活の基本が崩れてしまった。大学で1日を過ごしたいです。

上田さん：先生に会いたいです。あと、ゲームセンターで大好きなリズムゲームを存分にしたいです。

深山さん：まずラーニングアシスタントの活動を通じて、オンラインで知り合った先輩や後輩、先生たちに会いたいです。あと、在学中にボランティアと海外留学は実現したいな。

柳さん：友だちに会いたいです。友だちと一緒にいる時間がどれだけ大切な時間なのかを痛感しました。みんなと遠出をしたり、趣味を一緒に楽しんだり、大学生にしかできないことをたくさんしたいです。

Webを活用した授業を紹介します

さまざまなツールを使ったり、Web授業に適した教材の開発など、教員たちが試行錯誤を繰り返しながら行ったリアルタイム遠隔授業やオンデマンド授業。その一例を紹介します。

リアルタイム遠隔授業

科目名：物理学実験Ⅱ（1クラス）（前）　履修者数：50名

常識的にはオンラインでは平常どおりに実験・実習を行うことは不可能と言えます。しかしわれわれの学科では学生自ら装置を操作しながら行う実験・実習科目はカリキュラムの中でも非常に重視されており、なんとか実施できないものかと教員間でさまざまな検討を重ねました。その結果、実験装置を履修者の自宅へ郵送し、自宅で実験を行いながらオンラインで授業をするという発想に至りました。安全などにも配慮した自宅でも可能な実験カリキュラムを練り直し、Microsoft Teamsを使用して、学生側からも画像を返信してもらいながらリアルタイムで指導するという授業計画を立てました。初めての試みでしたが、少人数グループでの授業だったので出席者全員分の機材をそろえることができ、思った以上にスムーズに授業を実施できました。

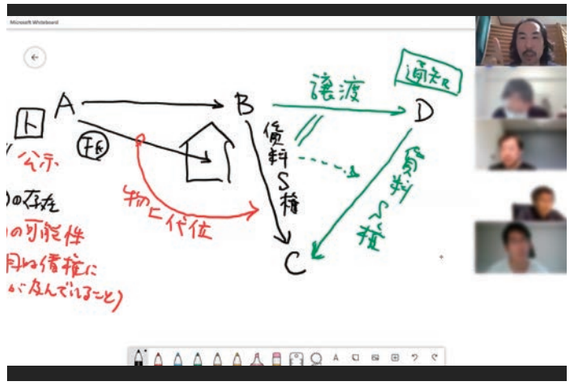
理工学部 物理学科 教授 秋宗（あきむね） 秀俊（ひでとし）

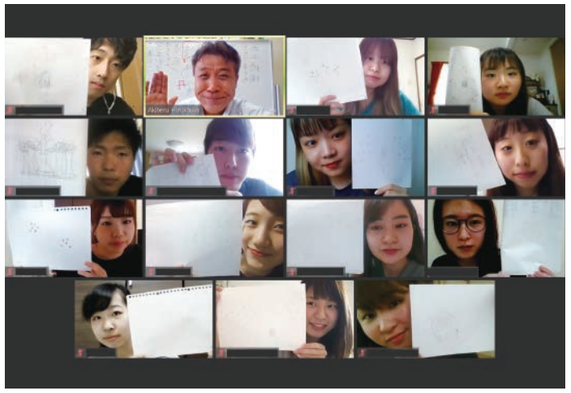
リアルタイム遠隔授業

科目名：民法演習Ⅰ（D）（前）　履修者数：13名

写真は法科大学院で民法の事例問題の解説をしているところですが、事例の分析・検討には作図が欠かせません。加えて、図は学ぶ側が自分で描けるようにならないと意味がないので、教員の手描きであること、展開のプロセスを見せられることが重要です。そこで、使い勝手のよさそうなホワイトボードアプリを見つけて、私がタッチペンで描き込む画面をZoomで共有して見てもらうことにしました。教室での板書と遜色ないようにできたと考えています。ただ、オンラインでは、資料から画面に目を移すべきタイミングや、画面のどこに次の一筆が入るのかを、受講者は認識しにくいと思われますので、ことばでの誘導の技術を身につけねばならないと思っています。

共通教育センター 准教授 山本（やまもと） 貴揚（たかあき）





リアルタイム遠隔授業

科目名：演習Ⅰa（L1）（前）　履修者数：14名

「質の高い教育を学生たちに届けたい!」この熱意でリアルタイムZoom授業を展開しました。左のZoom画面は2年生ゼミ14人に、『万葉集』の名歌「春の苑（その） 紅（くれなる）にほふ 桃の花 下照（したで）る道に 出（い）で立つ娘子（をとめ）」の情景を絵に描いてみよう!と語りかけた時の画面です。「にほふ」とは?「桃の花」はどう咲く?「下照る」とは?学生たちは個々の表現に真摯に向き合い分析し、自分自身の手段とことばで説明しました。分析能力・分析結果表出能力は、卒業後の社会・時代を生き抜くために必要な能力です。学生たちはこの授業を通して上記能力を培い、感性を磨くことができました。学生たちのすばらしい将来の基盤を形成し得る教育を実践でき、教員として幸せです!

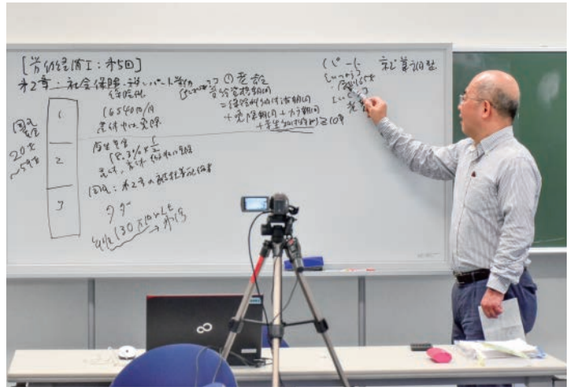
文学部 日本語日本文学科 教授 廣川（ひろかわ） 晶輝（あきてる）

オンデマンド授業

科目名：労働経済Ⅰ（C）（前）　履修者数：371名

これは、税や社会保険、給料の決め方や残業時間など、職場で出合う制度やルールについて学ぶ授業です。話を書き取る練習として、授業の動画を観て内容を整理してもらいました。会議の議事録を作れるようになるでしょう。けれども、学生から「きれいな字で板書してください」というメールが来ました。課題を出すと、「解き方も教えてください」。学ぶ人と、教える私のスタンスの違いを感じました。返信で「（板書を）写して、覚えて、点を取る」より「（資料を）読んで、考えて、意見を述べる」という新しい日常を勧めましたが、実際には時間の制約から知識を授けて終わりました。オンラインで「きちんと考えるとはどういうことか」をどう伝えたらいいのか、目下思案中です。

経済学部 経済学科 教授 上島（うえしま） 康弘（やすひろ）



高中 KONAN BOY'S HIGH SCHOOL

TOP!CS

日々急変する事態にも、生徒ファーストを念頭に対応

●甲南高等学校・中学校の新型コロナウイルス感染症対策

突然に直面せざるを得なくなった非日常は、日々刻々と様相を変え修学環境に影響を及ぼし続けました。そういったためまぐるしい事態にも即時的に対応し、生徒の安全と教育の質の維持を念頭においた、これまでの取り組みをお伝えします。

1 6月5日、中1生が1学期初めての登校
2 入学式の代替として、山内校長による講話の配信
3 新入生代表による「新入生のことば」
4 話に耳を傾ける中1生
5 ソーシャルディスタンスをとり着席

休校措置を発令後、卒業式、入学式・始業式を相次いで中止に

新型コロナウイルスの感染が拡大の様相を見せ始め、政府から小中高への休校要請が出されたのが2月28日。それを受け甲南高等学校・中学校では、翌29日に3月3日から14日まで、最初の休校措置を決定しました。同時に休校期間中の期末考査ほか、学習合宿、クラブ活動など多くの行事・活動をすべて中止に。この時点では、15日の中学校卒業式は開催する予定にしていました。しかしながら感染は日々猛威を振るい拡大する一方。本校では生徒の安全を第一に考え、その状況を生徒・保護者にお知らせしつつ、その都度対応することとなりました。結果いつしか4月まで登校ができなくなりました。いよいよ新学期を迎えるにあたり、4月6日に山内守明校長から保護者宛に、8日からの入学式・始業式を時差登校によって実施する旨をお知らせするも、翌7日に政府から緊急事態宣言が発出されました。8日からの新学期開始も残念ながら自粛を余儀なくされました。

新学期に遅れることなく高校三・二年生を皮切りにオンライン授業を開始

緊急事態宣言が解除される5月上旬まで登校が不可能になったことから、いち早くオンライン授業の実施環境を整備。従来より導入しているクラウド型の学習支援システム「MetaMoJi ClassRoom」での課題学習に加えて、4月13日に高三年生、17・18日に高二・一年生に向けてZoomを用いたリアルタイム遠隔授業を開始。中学生についても同様で、配付された課題での学習や、学習支援アプリとオンラインでの教育支援を段階的に実施しました。その後、自粛期間の延長を受けて、5月31日までオンライン授業を継続することを決め、5月初頭に必要な学年にはiPadを配布、修学環境を整えを整えました。

段階的に登校を解除し高一・中1年生に入学ガイダンスを実施

5月21日、緊急事態宣言が解除されたことを受け、オンライン授業は継続しつつ、一部登校型の学校再開を検討しました。密を避けるため学年ごとの分散登校を計画し、6月4日に高一年生、5日には中1年生に入学ガイダンスを行いました。これは中止された入学式を兼ねるもので、生徒たちはソーシャルディスタンスが担保された教室で、別室から配信される山内校長の訓話に耳を傾けました。入学記念品として校歌を収録したCDが贈られたのに続き、新中学1年生代表、徳本琉希（とくもとりゅうき）さんの新入生のことばで、ガイダンスは締めくくられました。なお、登校再開にあたっては、登校前の検温や手洗いの励行など安全のガイドラインを示し、手洗い場の増設や教室への網戸設置など、感染拡大を防止する修学環境の整備に取り組みました。

生徒各々の学習環境を整え オンラインであっても 授業の質を確保し 個別に対応できる体制を整備

この間、担当教諭は試行錯誤と手探りでオンデマンド教材やオンライン授業のコンテンツ開発に取り組み、非対面型授業の質向上に努めました。同時に、生徒一人ひとりのペースに合わせて学習が進められる、個別型遠隔学習教材「すらら」の導入によって、さらに生徒の自学環境を整えました。長期化の様相を見せるオンラインでの授業にともない、オンライン授業の学習環境整備補助（通信費補助）1万円の一律支給を決定。一方、新型コロナウイルス感染症の影響にともなう家計急変特別支援奨学金を新設し、感染症の影響を受け困窮する生徒の修学環境の支援にも努めました。

オンライン授業の学習環境整備補助（通信費補助）
1万円
新型コロナウイルス感染症の影響にともなう家計急変特別支援奨学金
20万円 ※申込資格を満たす者

科目名：英語（高一DE組・フロントランナー・コース）　杉本 智昭（すぎもと ともあき） 教諭

オンラインであっても学びの主体が生徒であることを心に留めながら、できるだけ対話的な授業を心掛けるとともに、家庭学習につながるような授業を行いました。オンライン授業では質問がしづらいという声があったため、授業後に質問を聞いたり、生徒と話をする機会を設けるようにしていました。

科目名：国語（高二DE組・フロントランナー・コース）　池田 直輝（いけだ なおき） 教諭

全員で漢文の句法を暗唱して、画面越しにつながりを感じられるようにしました。また、生徒の迷いを減らすため、授業の「型」をつくり、授業の進行を、ある程度一定にしました。1枚のノートに、1つの質問を簡潔に記載しました。明確に視覚化することで、話題にしていることがはっきりと伝わるように心掛けました。

科目名：数学（中3a組）　坂上 貴彦（さかがみ たかひこ） 教諭

休校期間中、生徒たちはお互い会えないので、せめて授業だけでも「いつもどおりの授業」と感じてもらえたら、と考えて授業に臨みました。リモート授業が始まった当初は生徒も緊張していましたが、回数を重ねるごとに「いつもどおりの笑顔」を見ることができました。

科目名：体育（高二A組）　半田 篤（はんだ あつし） 教諭

体育の授業をオンラインで行うにあたり、ステイホームでの運動不足を解消するための実技ができるように考えました。ストレッチから始め、音楽に合わせてトレーニングやダンスを発信しました。生徒は楽しんで取り組んでくれたようです。ただ、Zoomのため、生徒の動きと反応が確認できないことが残念でした。

甲南のICT教育

メディア情報部 部長 橋本 昌洋（はしもと まさひろ）（英語科）

中高の教育のデジタル化とICT教育は、生徒一人ひとりがiPadやPCを活用し、知識や技能を習得し、思考力、判断力、表現力を身につけ、多様な人々と協働して学ぶことができる人物に成長することを目的としています。生徒は、学習支援システム「Classi」や「Feelnote」上で学習の自己管理を行い、ポートフォリオを作成して自らの学びを記しています。また、「MetaMoJi ClassRoom」や「すらら」を活用し、学びを共有したり、個々の学力に応じて学習に取り組んだりしています。社会の急速なデジタル化とGlobalizationが進む中、教諭の授業も生徒の学びもさらに変化していくと感じています。

平生釟三郎日記刊行記念シリーズ　特別編

スペイン風邪の猛威

甲南大学名誉教授　藤本 建夫

“スペイン風邪”の感染防止のため、マスクを着用した女子学生（1920年2月）

百年前のパンデミック

第一次世界大戦も終わりに近づきつつあるころ、いわゆるスペイン風邪（スペインインフルエンザあるいは流行性感冒）が1918（大正7）年3月にアメリカの陸軍基地から始まり、またたく間に全世界に流行し、1918年から1920（大正9）年にかけて世界人口約20億人のうち6億人前後が感染し、死亡者は2から4千万人に達したと言われている。いわゆるこのパンデミック（世界的大流行）は日本も例外とせず、1918年10月あたりから流行し始めた流行性感冒の感染力は猛烈さをきわめ、第一波のピーク時の11月には死亡者数は44,333人に達した。これで収まるかに見えた感冒は再び1919（大正8）年12月から急増しはじめ、第二波となって日本人を恐怖に陥れ、そのピーク時にあたる翌年1月には39,562人に達した[1]。

この経済的時代背景を見れば、1918年11月11日に第一次世界大戦が終結し、戦前の世界秩序が一気に崩壊し、それと同時に戦後不況が到来する。この戦中から戦後にかけてスペイン風邪の第一波が猛威を振るう。1919年の5～6月より日米貿易を機に景気が回復に転じ、株も物価も高騰してゆく。他方感冒は12月あたりから再び牙をむき始め、農村部でさえも話題は株で持ちきりで、新聞の話題は株と感冒の記事で埋めつくされた。だが感冒が下降に転じる翌年の2月あたりから経済も怪しくなり始め、そして3月15日には大恐慌が来襲する。

平生が体験したスペイン風邪

スペイン風邪の感染が減少に向かうと同時に大恐慌が襲ってくるとは、日本経済にとって何とも皮肉な巡り合わせだが、東京海上火災専務で大阪・神戸両支店長であった平生釟三郎の目にはスペイン風邪はどのように映ったであろうか。彼の日記を読みながら百年前のスペイン風邪が今回の新型コロナウイルス禍としてそっくり再現されているのではないか、という錯覚にとらわれる。

1918年10月23日の平生日記に次の記述が見られる。「世界の各方面に流行せるスパニツシ フヒーバーの一種なるか、将又普通のインフルエンザなるか、我国の各部に流行し其勢猛烈にして小学校中には過半数の生徒がこの感冒に犯されたる為め、一時休校せしもの少なからず。…世界的戦争と共に世界的感冒の蔓延を見る、奇というべし」。しかし、外国での感染率と死者と比べると、例外的に「我国のものは寧ろ軽症」である。また11月1日の日記においても、新聞は大部分の紙面をこの記事にあて、死亡者数の急増の状況を大々的に報じているが、やはりこの感冒は「寧ろ軽症にして二三日高度の体温を持続すれども、三四日にして治癒せざるものなし」と記している。

だが11月4日の日記には、この流行性感冒がただ者ではないことを記す。「流行性感冒は益々猖獗にして都鄙を風靡し至るところ其噂を聞かざるはなく、為めに死亡者の数益々多を加へ、火葬場の如き常に満員にして、数日の猶予を要するが如く、医師看護婦不足にして、病者には充分の手当を施す能はず、為めに死亡するもの少なからざるが如し。而してこの病因は未だ明確ならず。或は黴菌なりとの説あるも明かならず。実に恐るべき伝染性を有するものといふべし」。

11月7日の日記には、火葬場がどこも満員で荼毘に付すことができず、兵庫県では応急策として露地で火葬することが許された。「実に惨鼻の極といふべし」。ただこの感冒は「決して悪性のもの」ではないから、まず第一に咽喉を犯されるので、うがいが勧められている。悪性ではないとはいえ、一時高熱を発するので脚気患者、妊婦、身体に障害がある者は高熱のため「余病」を発して死に至るようである。「年若き母が孩児を残して永逝する惨状、実に名状すべからざるもの少なからず」。

11月11日には第一次世界大戦が終結し休戦条約が調印されたが、スペイン風邪は相変わらず猛威を振るい、平生家でも再発するケースが相次ぎ、11月13日の日記にはこう記す。「昨夜来又々すゞ子、三郎、富美子、流行性感冒に罹り臥床。次で今朝五郎も又同病に罹り今や七名の患者、頭を駢べて平臥しつゝあり。而して看護婦は全く跡を絶ちて招けども来らず。医師は繁忙と罹病とに依りて意の如く来膠せず。実に困難名状す可からず。…余は余の生涯に於て嘗て如此き艱難を覚へたることなし」。

実は平生も感冒に罹っている。11月18日の日記に、昨日より悪寒を感じ、解熱剤を飲みいつもより早く床についたが、今朝は快復しているものと体温を測ると、予期に反して37度を超えていた。今回の感冒で倒れた者の多くは「低度の発熱と侮りて最初に注意を怠りしものが、終に重患を伴ひて其犠牲となりしもの多数なれば、余は本日終日臥褥して体温の変化を試みるを可とし、業を休み平静に病の経過を見たりしが、夕刻に至るも体温の昂上を見ず」。平生はこの感冒の性格をよく熟知し、安静にしたために軽度で快復したのだが、平生家では23名中19名がこの病に罹ったにもかかわらず、一人の重患者もなく漸次快復して、今では3名の病者を残すだけとなった。この間一人の看護婦の手も借りずに順当に本復していったことは「全く一同が誠心誠意を以て互に介抱し互に看護し、湿布氷嚢の交換は勿論、炊事掃除の事等、互に相助け相済ふてこの好成績」をもたらしたと言える。

では東京の感染状況はどうなっていたのか。1919年2月2日の平生日記には以下のように記されている。「流行性感冒は今や帝都を襲ひて其猛威を逞ふし、全都人口の半数はこの病に冒されつゝあるが如し。過去二週日の死亡実に千参百名に及び、為めに人心恟々たるが如し。青木蔵相等政府部内に於ける有力者にして病褥にあるもの少なからず。為めに政務に支障を来たすの恐あらんとす。実にインフルエンザこそ最も恐るべき伝染力を有するものにして、未だ確然たる研究の結果を見ざるも、若し免疫力微弱にして二三ケ月にして再び病毒に感染する恐ありとせば、世界の人口はこの病魔の為めに減退を免れざるに至らんか」。

感冒は一時期下火になるが、1919年12月から翌年の春にかけて再び大流行が襲う。1920年1月9日の日記にはこれまでと違った興味深い叙述が見られる。「流行性感冒は益々猛威を逞ふし阪神に於ける死亡数は例年に倍し、火葬場に於ては柩の堆積を見、神戸に於ては止を得ず野焼を開始して整理しつゝあるの勢なり。…其ワクチンの注射が効果あるや否やにつきても異説紛々として統一せず。左れば其治療法に関しても一様ならず。然れども一昨年より昨年に亙り流行せし時に感染せしものは再び冒されざるもの多数なる点より考ふれば、免疫性なること明かなるが如し」。

これほどの感染力に政府は何もできなかったのか。1920年1月14日の新聞に、内務省から各地方長官に、マスクをかけていない者は電車などに乗車させぬことの通達が出た、とある。

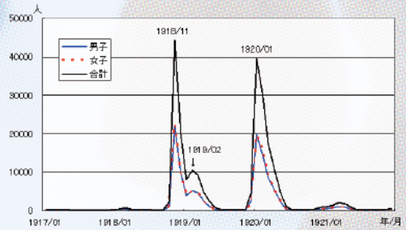
スペイン風邪の社会的・政治的意味

平生は第二波になると免疫の効果が出てきたことに注目しているが、そのことよりも病気は単なる病気として済まさず、その社会的・政治的意味を問題にするのが平生らしい。特に1917年のロシア革命の成功で、世界で初の共産主義国家が成立したことに平生は関心を深めていた。1920年1月20日の日記には社会主義、平等主義とかかわらせて次のように論じている。この病は貴賤に別なく感染し死亡する。他方で「今や社会主義、平民主義は澎湃として全世界に漲り、過激主義も又この情勢を利用して其勢力範囲を拡張しつゝある」が、これは平等主義を掲げる「破壊主義の前駆」かも知れない。もし疫病が「天下の政治家を戒むる天の声なりとせば、天はこの病魔を下して天下に残存せる不公正不公平なる政治を撲滅し、四民が各公平に福利を享受すべき公正なる政治組織の下に生活し、以て各民がその心力体力に応じて報酬を得、各民をして其生を楽ましめん為めに、この平民主義的の疫病を流行せしめ、以て思想上の過激思想と相伴ふて公平なる政治の実施を促進せしむるものにあらざるか。為政者及主権者は大にこの警告に鑑みて政治的改造を企劃せざる可からず」。

このようにスペイン風邪というこのパンデミックすら利用して、平生は私利私欲にこり固まった日本の政治家を批判するのだが、まさにこのさなかの1919年4月21日に甲南学園が創立された。あれから百年、新型コロナウイルス禍の今、猖獗を極めるスペイン風邪流行の中で記した平生の社会的パースペクティブを甲南新世紀教育においても堅持していきたいものである。

参考文献
1 池田一夫ほか「日本におけるスペインかぜの精密分析」「東京都健康安全研究センター研究年報」第56号、2005年、369・370ページ

インフルエンザによる死亡者数の月別推移



出典：東京都健康安全研究センター研究年報第56号「日本におけるスペインかぜの精密分析」

『平生釟三郎日記』全十八巻を刊行

学園創立者・平生釟三郎が32年間にわたって書きつづった『平生釟三郎日記』の翻刻が完成しました。

ご注文・ご購入に関するお問い合わせ
［ TSUTAYA BOOKSTORE 甲南大学 学友会館 ］
Tel.078-441-7901
Fax.078-441-7915

なるほど!
甲南アカデミア

テレワークの課題をひもとくと組織全体、ひいては社会全体の課題が見えてきます

コロナ禍による自粛期間中、テレワークに取り組んだ方が多いことでしょう。この機に、今後も多様な働き方の一つとして拡大が望まれるテレワークですが、「一人ひとりの成果をどのように評価するのか」という課題もあります。人事評価制度の研究に取り組む奥野明子教授にお話を伺うと、それだけではない、組織や社会のありようから考え直す必要性が感じられました。

テレワーク拡大を阻む日本式の雇用形態

テレワークは、私が2012年に甲南大学に着任してすぐ、講義で取り上げたテーマの一つです。当時から学生に「あと何年かで、みなさんは大教室に座って受講する必要がなくなりますよ」と言っていたのですが、図らずもコロナ禍でそうなりました。4月からの自粛期間中、講義はオンラインへと移行しました。移動時間の無駄がないなど、テレワークのメリットを実感しました。

ただ、日本でテレワークがさらに広がり、定着するためには多くの課題があります。その中でも、テレワーク下での人事評価は、いま多くの企業の関心事です。コロナ禍で急にテレワークに取り組んだ企業では、それに見合う人事評価制度の整備が追いついていません。

人事評価制度とは、①担当している仕事をどれだけ遂行したか(成果)、②職務遂行に必要な知識やスキルをどれだけ有しているか(能力)、③仕事に対してどのような態度をとっているか(意欲・姿勢)を、一定の基準で客観的に評価する仕組みです。しかし、テレワークだと上司からはどれもが見えにくいため、これまでの人事評価制度が上手く機能しません。

私が人事評価というテーマに出合ったのは大学時代です。学べば学ぶほど「人事評価はマネジメントそのものだ」と感じます。人事評価制度は、組織が求める行動や能力をメンバーに伝えるためのメッセージです。組織にとって望ましい行動が、高く評価されます。テレワークだけを見すえて人事評価制度をつくり変えることは、簡単ではありません。これまでの日本の企業では、年功序列的に処遇が決まるので、人事評価制度を詳しく規定してきませんでした。また、職務の区分があいまいで、テレワークに切り替えづらいといったケースも多く見られます。では、どのような働き方であれば、テレワークと適切な人事評価を両立できるのでしょうか。

これから推進したい働き方は「ジョブ型」

ここからは図を使ってご説明しましょう。現在よく聞かれることばを使うと、働き方(雇用形態)は大きく3つに分けることができます。

■メンバーシップ型…従来から日本の企業に多い働き方。勤続年数とともに職位や給与が上がるため、人事評価の必要性は少ない。職務の区分が不明瞭なので、テレワークには不向き。

■ジョブ型…「この仕事はこの人に」という明確な職務区分のもとで働く。企業と雇用関係にあるため、処遇を決めるための人事評価が必要。

■コレクティブワーカー…企業と契約し、業務委託されて働くフリーランス。企業に属さず、市場によって評価されるので企業(上司)による人事評価は必要ない。最もテレワーク向き。

図でおわかりのように、ある程度テレワークがしやすく、人事評価もしやすいのはジョブ型の働き方です。このたびのコロナ禍で注目されていますが、それ以前から、日本でもジョブ型を先取りする企業は増えてきていました。これは、価値観も家族形態も多様化している現代社会の中で、多くの人が従来からのメンバーシップ型に息苦しさや、働きづらさを感じているからです。もちろん、雇用形態は職種にもよるため、全企業にジョブ型を推奨するわけではありませんが、すでに社会全体が過渡期に入っていることは間違いないでしょう。

経営学部 経営学科 教授 奥野(おくの) 明子(あきこ)

大阪市立大学商学部卒業。大阪市立大学大学院経営学研究科博士課程単位取得。大阪経済法科大学講師、帝塚山大学准教授などを経て 2012年より現職。目標管理を中心とした人事評価制度の研究を行い、現在は育児休業取得後復職者の人事評価研究に注力。中・高校生の二児の母でもある。元々アウトドア派で大学時代は競技スキー・アルペン部に所属。中型バイク免許も所持。子育てが一段落した今、何か新しい事を始めようと画策中。

社会の仕組みを変えて生きやすい社会へ

ジョブ型の働き方を浸透させるには、「転職は悪」という意識から変えていくことです。定年まで勤め上げると褒められた終身雇用と違い、ジョブ型は職務の専門性を武器に、有期雇用で複数の企業を移動する働き方だからです。ジョブ型の働き方が普及すれば、A社を辞めた人がB社に入り、C社からA社にまた人が入って…というように、労働市場で人がしっかり回るようになります。そうでなければ、辞めたら次はないかも…とそこにとどまってしまい、メンバーシップ型に逆戻りです。

また、転職を前提とするジョブ型は、派遣社員やアルバイトのような非正規の働き方と混同され、処遇が悪いのでは…とも思われがちです。ジョブ型=非正規=低賃金という構図も是正していかねばなりません。

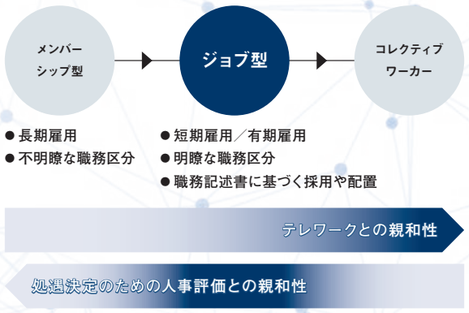
一方で、ジョブ型には人材育成が困難という欠点もあります。これまで日本の企業は、電話対応もままならない新人にも給与を支払い、じっくり人を育ててきました。そのお金を払いませんよ、というのがジョブ型です。それでは、誰がどうやって人を育てるのでしょうか?この課題も同時に解決する必要があります。

このような新しい課題もあるにせよ、ジョブ型が浸透すれば、多くの人が息苦しさから解放されるのではないでしょうか。私がめざすのは、時には仕事をひと休みしたり、都合で退職しても再挑戦できる「誰もが生きやすい社会」です。

女性の活躍とも親和性が高いテレワーク

私自身は、大学院生のころからおよそ25年間ずっと人事評価と目標管理について研究してきました。その間、二度の出産を経て、2017年からワーキングマザーの視点から「産休・育休からの復職者の人事評価制度」の研究に取り組んでいます。現在は関西学院大学の女性活躍推進研究センターにも籍を置き、ワークショップを通じて復職者の声を聞くなどしています。今後、ジョブ型の働き方が増え、テレワークでも適切に評価されるようになれば、出産・育児・介護などで働きづらさを感じてきた人が活躍できると思い研究を続けています。

ただし「企業のあり方」が働きやすいように変革しても、「家庭のあり方」が女性の負担が大きいままなら意味がありません。企業と家庭はコインの裏表です。両方がセットで変わる必要があります。現在、私は経営学のアプローチで企業を研究対象としています。その一方で、「家庭のあり方」についての研究が進み、社会が変わることを期待しています。



It's KONAN Style

さまざまな分野の第一線で活躍する卒業生

キャビンアテンダントから食の激戦地、中国・広州で支持される転身。カフェレストランのオーナー

香港に近いグローバル都市・広州は、外食市場が成長を続ける中国の中でも、各国の料理店がひしめきあう飲食業の大激戦地です。そんな広州で、地元の方々はもとより、観光客からも人気を博するカフェレストランが「リア・カフェ」。オーナー経営者である松山里絵さんは、甲南大学法学部を卒業後、エバー航空・上海航空のキャビンアテンダントを経て中国に根を下ろし、起業したチャレンジ精神あふれる女性です。そのバイタリティの源泉はどこにあるのでしょうか。「甲南での4年間がなければ、今の私もない」と松山さんは言いきります。

リア・カフェ オーナー

松山 里絵（まつやま りえ） さん

2006年、法学部を卒業後、エバー航空・上海航空でキャビンアテンダントとして勤務。その後、中国・広州に移住し、2013年に現地でレストラン「リア・カフェ（Lia Café Bar Restaurant 中国語名：松山珈琲屋）」をオープン。地元の大人気店となる。現在、英語・中国語に加えてフランス語もマスターするべくレッスン中。

多彩なおいしさとSNS映えする美しさで勝負

〝You should definitely go（絶対行くべき）〟〝性比価高！（コスパがいい！）〟。中国の飲食店クチコミサイト「大衆点評」には、「リア・カフェ」を絶賛する声が並ぶ。メニューは洋食やエスニック料理、さらにスイーツまで多彩。日本式のラーメンとともに看板メニューとなっているワッフルは、〝映える〟飾り付けで若い女性の心もつかんでいる。

店内は1階から4階まで200席以上あり、抱えるスタッフは約50名。松山さんは毎日、厨房やホールに指示を出し忙しく立ち働いている。店内のオペレーションだけでなく、新メニューの検討や売上管理、シフト調整といったマネジメントもこなす。

「実は、私の両親は複数の飲食店を経営しているんです。だから開業する前に、しばらく実家で修業しました。それから、広州で知り合った華僑の女性からもアドバイスをいただいています。この方は、近くで人気のベトナム料理レストランを経営している成功者。私の開業資金も投資してくださいました」。

実家が飲食店経営、現地にビジネスパートナーがいるというアドバンテージがあるにせよ、中国人でさえ店をつぶしやすい広州で日本人が成功を得るのは並大抵のことではない。ましてや、松山さんは経営を本格的に学んだことがなく、出身は法学部だ。なぜ、中国で経営の道に突き進んだのだろうか。

大学時代の留学経験から海外で働く自分が見えてきた

「大学で法学部に進んだのは、法律に興味があったわけじゃなく…。とにかく、高校まで一度も勉強したことがない分野に挑戦してみたくて」。そんなことばからも、生まれながらに〝チャレンジの芽〟をもっていたことがうかがえる。その芽をさらに伸ばしたのは、在学中の留学経験だった。

「小学校から私立に通っていて、周りに帰国子女が多かったんです。自然と海外に憧れ、大学ではイギリスへの短期留学と、1年間の長期留学を経験しました」。

長期留学ではリーズ大学の東アジア学部で学び、多国籍な学生たちと机を並べた。そこで松山さんは2つの衝撃を受ける。「一つは、ほとんどの学生が中国語を専攻していたこと。日本ではとにかく英語！だったのに、もう世界では中国語なんだ、と。もう一つは、人からの質問が『英語を話せる？』『中国語を話せる？』ではなく『何か国語を話せる？』だったこと…。グローバルに活躍するには、この質問に答えられるようにならなきゃいけない。そう強く感じました」。

大きな気づきを得た松山さんにとって、1年間の留学はあまりにも短すぎた。「もっと語学力を磨きたい」「働きながら自分を高めたい」という思いが募り、大学卒業後は日本の企業ではなく、台湾のエバー航空でキャビンアテンダントになる道を選ぶ。在学中、日本航空のインターンシップに参加し、香港の空港でグランドスタッフとして働いたことも糧になったという。海外での経験を積み重ねることで、「世界を舞台に働く」ことに何らハードルを感じなくなっていたのだ。

出会いをチャンスに変えて気づけば開業から7年

エバー航空に勤めたあと、松山さんは上海航空に移り、さらにキャビンアテンダントの経験を積んだ。仕事ばかりではなく、恋もした。ロシア人の男性だった。ある意味〝運命の出会い〟と言えるかもしれない。「その彼が『中国人の友人と広州で起業する』と言うので、ついていくことにしたんです」。しかし松山さんは、ただ恋人に寄りかかっている女性ではない。自分の足で立とうとする。なんと広州に着いた翌日、現地で日本語フリーペーパーを発行している会社に面接に行き、すぐに広告営業として採用が決まった。そして、いちばん最初に営業に行ったレストランの経営者が、現在のビジネスパートナーである華僑の女性だった、というわけだ。

「飲食店をやろうと思ったのは、広州で自分の居場所をつくりたいと思ったからです。でも、最初の2年間は、レシピを考えて、作って、お客さんが来て対応して…で、精一杯でしたね。食材をアバウトに量ったり、店の酒を勝手に飲んだりする中国人従業員の扱いにもずいぶん悩まされたとか。「最近、やっと『利益を生む』ことが楽しいと思えるようになってきました」と笑う松山さん。「リア・カフェ」はこの夏、2013年7月の開業から7周年を迎えた。

アジア2号店、日本でビジネス…、チャレンジは終わらない

今年のコロナ禍で、中国の飲食店も大打撃を受ける中、松山さんは甲南大学に1,000枚のマスクを寄贈。そこには、今も忘れられない母校への思いがあった。「甲南は、個性を尊重する自由な気風から、向上心の高い学生、挑戦する学生が多かったように思います。そして先生方も背中を押してくださる。自分のやりたいことをとことん追いかけるという姿勢は、間違いなく甲南で身についたものです。だからこそ、私は今も海外でがんばれているんだなって」。

松山さんの次なる目標は、中国の店を発展させつつ、アジアの別の国にも出店すること。「フィリピンやベトナムがいいかな、と考えています。若い人が多くて、広州から飛行機だと2時間で移動できますし。あとは、今までの経験を生かして、日本でも何かビジネスをやってみたいですね。これは飲食店かどうかもわからない、まだ漠然とした夢ですけど」。

〝チャレンジの芽〟は、世界を覆う感染症ごときではへし折れそうにない。そして、まだまだ伸びていく、もっともっと大きな花を咲かせようとして。

地元中国の方々だけではなく、
リア・カフェは世界中のゲストから支持されている。

本格的なディナーメニューからティータイムのスイーツまで
幅広いメニューを取りそろえる。テイクアウトにも対応。

リカレント教育プログラムが始動

世界が激動する今だからこそ 個人の質が問われている。 大学で「学び直し」しませんか？

甲南大学では、2021年4月、リカレント教育プログラムの開講に向けて準備を進めています。生涯にわたり充実した人生を送るための一助となるリカレント教育プログラムについて、同センター所長渡辺顕修教授が解説します。

リカレント教育センター所長
教授 渡辺（わたなべ） 顕修（ぎしゅう）

「新知識ノ吸収ハ一生ヲ通ジテ 一日モ怠ルベカラザルモノ」 学び直しも甲南大学で

見出しは甲南学園創立者平生釟三郎の1923（大正12）年3月14日の日記の一節ですが、「人生100年時代」を迎え、生涯にわたり社会で活躍する人生を送るため、政府は大学での「リカレント教育」の推進を図っています。リカレント教育とは、社会へ出てからも変化する時代に即した知識やスキルを学び、それを仕事や社会に還元していく「社会人の学び直し」を意味します。

平生釟三郎は、「人生三分論」という哲学をもっていました。人生を「教育を受ける時代」、「自立の時代」、「社会奉仕の時代」の三期に分け、第一期には最善最良の教育を受け、第二期にはその学びを生かして各自が社会の中で自立を図り、第三期では蓄積した力を広く社会へ還元し奉仕すべし、という考えです。

本学は第一期の「教育を受ける時代」、すなわち新しく学ぶ世代の教育に力を注いできましたが、学園創立100周年を機に、まず、第三期にあたる社会人のための「人生100年時代の学び」プログラムを開講し、引き続き第二期で活躍する社会人のためのプログラムを準備します。

社会人の学びの場としては、すでに「科目等履修生」や「聴講生」があります。本プログラムはそれらとは異なり、テーマをもって一定時間学ぶことで、コース修了後に「履修証明」（※）が付与されます。これは転職や再就職の際、履歴書の学歴欄に記載でき、プログラムの修了が、社会で活躍する次への出発点となるのです。

※本プログラムは学校教育法に定められた「履修証明制度」に対応しています。

平生フィロソフィーのもと 世代を超えたつながりを 育てていきたい

「人生100年時代の学び」プログラムは、時間にゆとりのある方々を対象として、昼間の授業に参加する4つのコースで構成されます。①大人の自己探求（人文科学系）コース、②ネクスト・キャリアをどう生きるか（社会科学系）コース、③情報社会のしくみを知り、安全に暮らす（自然科学系）コース、④多文化共生、グローバル社会で生きる（多文化・国際系）コースです。

本プログラムは「講義」と「ワークショップ」で構成されます。講義科目は大学生とともに学びます。本学ではリカレント教育においても、平生の「人物教育率先」という教育理念に基づき、大学生と同じ教室で学ぶことで生まれる、世代を超えた交流を大切にします。

ワークショップではゼミのように、所属コースごとに担当教員やプログラムで一緒に学ぶ仲間と話し合いながら学びを深めていただきます。（※）

さまざまな世代が継続して集い、お互いの得意分野の知識を交換し合う、「甲南の絆」を新たに作る場として大切にしていきたいと考えています。

※受講申込は1月に受付を開始します。
※新型コロナウイルス感染症防止のため、授業形態が変更になることがあります。

同窓生のみなさんの エネルギーをぜひお借りして キャンパスをより重層的な 学び合いの場として活性化したい

就業中の方、再就職をめざす主婦の方、リタイアし「ネクスト・キャリア」をお考えの方、お子さんが成長して時間に余裕ができた方など、さまざまなお立場の方。いろいろな世代の方がもう一度現役学生が通う教室に座り、一緒になって、基礎から「学び直し」をしてみませんか。学生のときには見逃した大切なものが今だから心に染み通る、そんな経験をぜひ甲南のキャンパスで体験してください。基本を学び直すことが、キャリアアップや新たなフィールドへのチャレンジのきっかけとなります。これが平生フィロソフィーのめざすところです。

さらに将来は甲南大学ならではの「ビジネスに強い甲南」コース（仮称）の開設も視野に入れています。企業・自治体・地域を学ぶ科目を配置する夜間に学べるコース、そんなことも考え合わせながら甲南大学は、社会人の「学び直し」を企画します。

「人生100年時代の学び」4つのコース

01 大人の自己探求（人文科学系）

さまざまなテーマの問答を素材とした対話で得られる気づきから、自己理解を深めます。その対話の素材になりうる美学・哲学・思想史に触れ、人間関係に関する心理的な知識を学び直し、自らの体験を振り返る糸口にします。同時に個人の変革・成長のマネジメントやリーダーシップの学習を通じて、振り返りを行動に結びつける実践マネジメントも学びます。
最終的には、多彩な受講生相互の真摯な対話から人生という物語に埋もれている信念や価値や美意識を再確認し、人生を刺激する、新しい意味や意義を体得します。

キーワード　哲学、倫理学、現代思想、芸術と社会、認知科学

02 ネクスト・キャリアをどう生きるか（社会科学系）

定年を迎えた後の働き方、その後の生活の資金をいかに確保しておくか、さらに、生きがいや地域社会とのつながり方など、充実したライフ・プランをさまざまなポイントから考えます。
そのため、生きがいを得られる資産形成や、ネクスト・キャリアの資産を確保するための保険や社会保障の仕組みについて、また、保有資産を次世代に託すため、贈与や相続について税金も含め考えます。このように多様な視点を養うために人生100年時代のキャリア形成を目的としてデザインされたプログラムです。

キーワード　社会とファイナンス、福祉と経済、社会生活と法

03 情報社会のしくみを知り、安全に暮らす（自然科学系）

インターネットを利用した電子メールやWWWは生活に不可欠です。重要なのは、これらを使いこなせるだけでなく、安全に使えることです。そのためには情報社会やそこで使われる技術を理解する必要があります。
このプログラムでは、情報社会の仕組みや経緯とその安全な利用の基本的な考え方を学ぶことができます。また実践的なセキュリティーインシデントへの対応方法や汎用的なデータの処理方法を身につけることもできます。さらにこのプログラムでの学習内容は情報処理技術者試験の資格取得にも役立ちます。

キーワード　情報社会のセキュリティー、ICTセキュリティー、情報通信テクノロジー

04 多文化共生、グローバル社会で生きる（多文化・国際系）

グローバル化で多様に変化する社会を理解し、どのようなアプローチで物事を見るべきかを考えます。日本国内での異文化受容や、日本と世界でどのような違いがあるかを文化面・社会面・法律や政策面など多角的に学びます。
具体的には、法・政治・文化を国内での変化や世界の地理的条件・福祉システム・歴史・宗教観・文化・社会構成とともに理解し、日常生活・海外旅行・ビジネス展開・国際交流・海外ボランティアにどのように取り組めるのかをグローバルとグローカルの双方から明らかにします。

キーワード　国際関係論、グローバリゼーションと文化、世界の中の日本

お問い合わせ
全学教育推進機構事務室
Email：recurrent@adm.konan-u.ac.jp
TEL：078-435-2598

プログラム内容、履修料などの募集要項の詳細は
リカレント教育センターWebサイトをご覧ください。
https://www.konan-u.ac.jp/education/recurrent/

2020年度

新任教職員紹介

2020年4月1日現在

よろしくお願いいたします！

経済学部
宮川 敏治 教授
2020年4月1日付
［専門分野］ミクロ経済学、ゲーム理論

経済学部
小佐野 広 特任教授
2020年4月1日付
［専門分野］コーポレート・ファイナンス

経営学部
望月 徹 特任教授
2020年4月1日付
［専門分野］地域・観光マネジメント

文学部日本語日本文学科
佐伯 暁子 准教授
2020年4月1日付
［専門分野］日本語学、日本語文法の史的研究、現代日本語文法

文学部日本語日本文学科
友田 義行 准教授
2020年4月1日付
［専門分野］日本近現代文学、文学と映画の横断的研究

文学部社会学科
関 めぐみ 講師
2020年4月1日付
［専門分野］社会学、ジェンダー、セクシュアリティ、スポーツ

理工学部物理学科
高吉 慎太郎 准教授
2020年4月1日付
［専門分野］物性理論

マネジメント創造学部
金坂 成通 准教授
2020年4月1日付
［専門分野］公共経済学、地方財政論

共通教育センター
西浦 太郎 特任准教授
2020年4月1日付
［専門分野］臨床心理学

高等学校・中学校
中村 浩亮 教諭
2020年4月1日付
［専門分野］保健体育科

高等学校・中学校
横山 真吾 教諭
2020年4月1日付
［専門分野］数学

高等学校・中学校
猪股 怜 任期付常勤講師
2020年4月1日付
［専門分野］数学

高等学校・中学校
村本 晶 任期付常勤講師
2020年4月1日付
［専門分野］英語

高等学校・中学校
髙田 恭一 特任教諭
2020年4月1日付
［専門分野］社会

教務部
中村 優香 専任職員
2020年4月1日付

経済・法・経営学部合同事務室
西尾 香穂 専任職員
2020年4月1日付

学長室
中野 智貴 専任職員
2020年4月1日付

アドミッションセンター
宮西 美紅 専任職員
2020年4月1日付

地域連携センター事務室
家村 駿 専任職員
2020年4月1日付

財務部
北野 誉幸 専任職員
2020年4月1日付

総務部総務課
瀬合 寿樹 専任職員
2020年4月1日付

キャリアセンター
山﨑 哲史 専任職員
2020年4月1日付

2019年度

退任教職員紹介

2020年6月30日現在

長い間ありがとうございました

法科大学院
櫻田 嘉章 教授
2020年3月31日付

マネジメント創造学部
島本 憲一 准教授
2020年3月31日付

マネジメント創造学部
高 永才 准教授
2020年3月31日付

マネジメント創造学部
倉本 宣史 准教授
2020年3月31日付

理工学部物理学科
安藤 弘明 教授
2020年3月31日付

文学部日本語日本文学科
木股 知史 教授
2020年3月31日付

文学部社会学科
谷 富夫 教授
2020年3月31日付

経済学部
柘植 隆宏 教授
2020年3月31日付

高等学校・中学校
中道 浩 特任教諭
2020年3月31日付

高等学校・中学校
松本 将 教諭
2020年3月31日付

高等学校・中学校
柳田 俊樹 教諭
2020年3月31日付

高等学校・中学校
吉沢 郁生 教諭
2020年3月31日付

高等学校・中学校
西田 和雅 教諭
2020年3月31日付

経済学部
筒井 義郎 特任教授
2020年3月31日付

学生部
小西 猛司 専任職員
2020年3月31日付

学生部
中村 英雄 専任職員
2020年5月31日付

総務部人事課
谷口 幸代 専任職員
2020年6月30日付

このほか、
［学生相談室］
青木 健次 特任教授
2020年3月31日付
も退職いたしました。

【重要】甲南大学2021年度入学試験について

2021年度入学試験より、入試区分および一部の入試制度名称が変更となります。新設・廃止となる入試制度はありませんが、募集学部・学科、募集人員、出願資格などに変更がありますので、志望する学部・学科が実施する入試制度を右記の入試情報から確認してください。

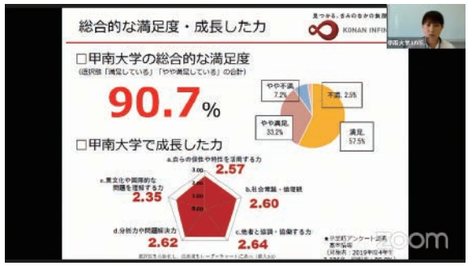
なお、新型コロナウイルス感染症拡大などにより、2021年度入学試験の内容に変更が生じています。変更内容は、受験生向け情報サイト「甲南Ch.」に掲載していますが、今後も変更の可能性がありますので、出願前には必ず確認してください。

入試情報はこちらから

新型コロナウイルス感染症拡大等に伴う2021年度入学試験における対応

夏期Webオープンキャンパスを開催

LIVE配信の様子



配信動画はパソコンやスマホで閲覧

新型コロナウイルス感染症の影響により、3月以降に学内で予定していた行事やイベントは軒並、延期・中止となりました。本学においても、春期オープンキャンパス（3/20）と夏期オープンキャンパス（7/12・8/2）は、感染状況や感染拡大防止の観点から、中止とさせていただきました。このような状況下でも、大学での学びや特長について理解を深めていただくために、「Webオープンキャンパス」を開催しました。夏期Webオープンキャンパスでは、動画配信だけでなく各種説明会のLIVE配信とオンライン個別相談を8月29日に実施。LIVE配信では模擬講義や入試説明、保護者対象説明をYouTubeで配信し、オンライン個別相談では学部の学びや入試、奨学金などに関する質問についてZoom会議を利用して対応しました。また、卒業生でMBSアナウンサーの大吉洋平さん（H20営・EBA卒）に大学説明動画のナレーターとしてご協力いただきました。

※10月4日の秋期オープンキャンパスは、感染防止策の徹底と人数制限を行い、事前予約制による対面での実施を行います。

新入生のみなさんにクラブ活動紹介動画を公開

本来であれば、4月はクラブやサークルの新入生勧誘活動が盛んに行われ、キャンパス内はにぎわいをみせていますが、コロナ禍の現在、勧誘活動は各クラブが独自で運営するツイッターやインスタグラムといったSNSを中心に行われています。Webサイトでは、甲南大学にどんなクラブがあるのかよくわからない、入りたいけどなかなか情報が入らない、といった学生に向けて各クラブの学生が制作した動画を取りまとめて公開しています。まだどのクラブに入ろうか悩んでいる新入生の方はもちろん、受験生をはじめとする高校生や、現状を知りたい卒業生の方もぜひ一度動画をご覧ください。また、クラブ・サークル活動についてわからないことがあれば学生部（078-435-2321）へお問い合わせください。

● 甲南大学（文化会・体育会）紹介動画
Web上では、各クラブのSNSアカウントも公開しています。

［体育会座談会企画］

甲南大学×学習院大学 どんな環境でも 前向きに、すべきことを！

@konan_honbu
甲南大学体育会本部
Instagramで部活紹介などを掲載しています

今年開催予定だった「第65回学習院大学対甲南大学運動競技総合定期戦」は新型コロナウイルス感染症の影響のため延期となり、来年に改めて開催されることになりました。コロナ禍において、部活動に所属する学生たちの練習や試合も軒並み中止となったほか、新入生の勧誘活動も満足にできない状況です。このような状況ですが、学生たちはSNSを駆使しながら、仲間と一緒に自分たちでできることを行い日々を過ごしています。今回は残念ながら延期となった定期戦ですが、両大学の体育会本部委員の学生たちが、定期戦や体育会のことをもっと多くの人に知ってもらいたいという思いから、関東と関西からZoomを使用して、それぞれの現状をお伝えします。

【甲南大学】
1 体育会本部委員長 桐野貴也 マネジメント創造学部4年次 サッカー部
2 体育会本部渉外局長 長安里彩 経営学部4年次 ヨット部
3 体育会本部広報局長 村上まどか 経営学部4年次 女子ラクロス部
4 体育会本部次期渉外局長 中村雄介 法学部3年次 硬式庭球部

【学習院大学】
1 運動部常任委員会委員長 牧ノ瀬佳吾 法学部4年次 硬式野球部
2 運動部常任委員会甲南戦実行委員長 齋藤夏緒 法学部4年次 水上スキー部
3 運動部常任委員会甲南戦実行委員 伊藤勇貴 文学部3年次 少林寺拳法部
4 運動部常任委員会甲南戦実行委員 吉永みよ 経済学部2年次 スキー部

村上（司会）:今年度は新型コロナウイルス感染症（以下、コロナ）の影響で、第65回学習院大学対甲南大学運動競技総合定期戦を開催することができなかったので、伝統ある定期戦を広く知ってもらいたいという思いと、両校のつながりを今後も大切にしていきたいという思いから、座談会の開催に至りました。みなさんよろしくお願いします。

一同:お願いします。

村上:早速ですが、トークテーマに移ります。部活動の現状と取り組み内容などを教えてください。

牧ノ瀬:学習院では、公式戦に向けた限定的な活動再開などの動きもあります。今回参加している4人は、屋外、屋内、サマースポーツ、ウインタースポーツの団体に所属しており、活動再開の動きに差があります。

村上:少林寺拳法部は、屋内で行う接触スポーツなので、いろいろと苦労されているのではないですか？

伊藤:僕たちはオンラインで練習しています。演舞なので、オンラインでも行うことができます。大会も今年は、オンラインで開催されるかもしれません。

一同:え！？

村上:新たな大会方法で、面白いですね。スキー部はどのように過ごしていますか？

吉永:各自で筋トレを行っています。

牧ノ瀬:少し相談があるのですが、部内で下級生から、オンライントレーニングなど意味があるのかなどの意見が出たとき、どうしますか？

村上:自粛期間が長引き、先が見えなくなると、部員全員が高いモチベーションを保ち続けるのは大変ですよね。

桐野:特に団体種目は、大きな課題だと思います。

牧ノ瀬:直接会わないと帰属意識が薄れる気がしますね…この自粛期間中、圧倒的に会話が減ったので、幹部も下級生もお互いに何を考えているのかわかってなかったのですよね。

村上:それを改善するために、何か行動したのですか？

牧ノ瀬:結局、数名の幹部と、各学年のリーダーで腹を割って話せるような機会を作りました。そのきっかけを作って以降、後輩からモチベーションの高いLINEが届いたりして、うれしかったです。

斎藤:自粛期間中でも、チームで良い方向に向かっていけるのはすばらしいことですね。

村上:こういう時期だからこそ、組織の風通しの良さや、下級生からの意見をもらうことも大切だと思いますね。

村上:今年は対面での勧誘活動ができない中で、新入生の勧誘方法をどのように取り組んでいたか、お話を聞きたいと思います。

牧ノ瀬:SNSの活用ですね。野球部など関係なく、運動部に興味がある子に対して相談などに乗りながら、連絡を取り続けて、Instagramのライブ配信やZoomのイベントに参加してもらいました。

村上:女子ラクロス部もオンラインでのイベントは積極的に開催しているのですが、実際に体験会ができないので、入部につながらない感じがしています。

村上:そういえば学習院大学のスキー部と少林寺拳法部は、経験者が少ない部活であるにもかかわらず、新入生が入部してくれたと言っていましたよね。

伊藤:少林寺拳法部は10名入部してくれました。

長安:少林寺拳法部のTik Tok見ましたよ（笑）

伊藤:うれしいです。Tik Tokのフォロワーは2万6千人います。

一同:えー！すごい！

伊藤:部員全員でInstagram班、Twitter班、Tik Tok班に分かれて取り組みました。

村上:全員で取り組む姿勢は本当に大切ですよね。

村上:現在でも、コロナ収束の気配は感じられない部分もあり、いつ部活が再開されるかも不透明ですが、部活が再開されたら、何がしたいですか？

長安:引退までの残り少ない時間の中で、マネージャーとして感染対策や選手の体調管理なども徹底して、最後までチームのためにできることを全力で取り組みます。

中村:部活再開後は、やはりこの期間ずっと部員全員が対面で集まるという機会が無かったので、チーム戦をしたり、チーム対抗でトレーニングしたりなど、全員が集って初めてできることを中心に活動をしたいです！

牧ノ瀬:部員が生き生きと野球をしている姿が見たいです。ここまで地味で苦しいオンライン上での活動をしてきた部員たちに、大好きな目白の地で思いっきり野球をさせてあげたいです。そして、最後のシーズンにもてる限りすべての力を注ぎ、大学4年間の集大成としたいです。

斎藤:選手をはじめプレイヤー全員が思いきり滑っているところを見たいです。悔いなく引退できるよう、マネージャーとしても全力でサポートしていきたいです。そして、全運動部がまたいつもどおりの活動を行うことができる環境にしていきたいです。

村上:それでは、最後に来年度の定期戦に向けての抱負や目標を聞かせてください。

桐野:来年は甲南大学が全勝します！（笑）

牧ノ瀬:僕たちが阻止します。

斎藤:これまでのように定期戦が盛り上がって欲しいですし、われわれ、運動部常任委員会と体育会本部のつながりを今後も大切にしていきたいです。

牧ノ瀬:毎年開会式と閉会式の2回しか会えないですが、こんなにも仲が良いですもんね。

村上:今後も学習院と甲南との深い関係が続くことを祈っています。以上で、オンライン座談会を終了したいと思います。本日はみなさん、ありがとうございました。

一同:ありがとうございました。

※座談会は7月に開催し、掲載内容は当時のものです。
誌面の都合上、一部内容を抜粋し掲載しました。

学習院大学対甲南大学運動競技総合定期戦とは

1952（昭和27）年以降、甲南大学と学習院大学の間で、準硬式野球・ラグビー・サッカー・バスケットボール・陸上競技・ホッケー・軟式庭球などの競技において、各種目ごとに定期戦を行っていました。その後、両大学のスクールカラーと学生気質が大変よく似ていることから、両大学の学生から多種目にわたる総合的な定期戦を設立しようという気運が高まり、学生スポーツの向上と親睦を深めることを目的として、1956（昭和31）年に、甲南大学において、「甲南大学対学習院大学総合定期戦覚書」が調印され、同年、学習院大学において第1回定期戦が開催されました。以降、両校が隔年で当番校となり、定期戦が行われています（『学習院大学対甲南大学運動競技総合定期戦50年史』より）。

課外活動成果報告（敬称略）

みなさんの活躍に心より拍手を送ります。

掲載期間 2020年1月～2月

大学

【弓道部】三十三間堂大的全国大会（1月）
女子個人優勝：西田侑加（文2）

【女子陸上競技部】日本陸上競技選手権大会・室内競技2020日本室内陸上競技大会大阪大会（2月）
女子U20走高跳決勝4位：小笠原早矢楓（文1）

高校

【将棋部】全国高等学校文化連盟将棋新人大会（2月）
男子の部ベスト16：畑山敏輝（高二）

中学

【テニス部】近畿中学校新人テニス大会（2月）
第3位

編集後記

今回の新型コロナウイルスによって生活様式が一変し、大学に行く・仕事をする・友達と会う・旅行をする、といった当たり前のことがどれだけ大切なことだったのかを、このコロナ禍を通じて感じずにはいられませんでした。

まだまだ感染状況に一喜一憂する日々が続いていますが、感染予防をしながら少しずつではありますが、日常を取り戻すべく私たちは前に進んでいます。気を抜かず、一人ひとりが意識をして行動する。そんな積み重ねを繰り返し、これまでの日常が戻ってくることを願うばかりです。

訂正

No.57 26ページに掲載の店名に誤りがありました。
【誤】LIFE IS JOURNEY!【正】LIFE IS A JOURNEY!

KONAN TODAY 58
2020 Autumn NO.

発行日／2020年10月19日
発　行／甲南学園広報部 〒658-8501
神戸市東灘区岡本8丁目9番1号　TEL.（078）431-4341（代）

PRESENT

ロゴ入りジェットストリート多機能ペン

4色ボールペンとシャープペンシルが1本に。
ボールペンは替芯対応です。

抽選で50名様に！

ご希望の方は、同封のアンケートハガキでご応募ください。

※ボール径・芯径は0.5㎜。軸色は選べません。

応募締切：2020年12月31日到着分まで

Konan Forum No.58

甲南学園の教員・教諭と卒業生が執筆した
新刊一覧

富士山麓にオウムなく
地下鉄サリン事件の預言
伊東 智夫［S49文卒］著
幻冬舎ルネッサンス新社
1,100円

自我体験とは何か
私が（私）に出会うということ
高石 恭子［文学部教授］著
創元社
3,800円

学生相談ハンドブック 新訂版
高石 恭子［文学部教授］他編
学苑社
3,500円

瞬読ドリル
山中 恵美子［H7法卒］著
SBクリエイティブ
1,400円

ナサニエル・ホーソーン長編小説集 緋文字 七破風の屋敷 ブライズデイル・ロマンス
青山 義孝［名誉教授］訳
デザインエッグ社

THE PSYCHOANALYTIC ZERO A Decolonizing Study of Therapeutic Dialogues
富樫 公一［文学部教授］著
Routledge
£34.99

時空の神宝
洛中洛外の未来へ
苗場 翔［S60理卒］著
ピコリックス・デザイン
1,800円

世の変遷で捉える日本国の役割
千葉 武志［S29高、S33済卒］著
文芸社
1,200円

Beliefs, Ritual Practices, and Celebrations in Kansai
荒川 裕紀［H8高、H12文、H14院卒］他著
Pro Universitaria
65RON

ファシズムの教室
なぜ集団は暴走するのか
田野 大輔［文学部教授］著
大月書店
1,600円

外来アリのはなし
後藤 彩子［理工学部准教授］他著
朝倉書店
3,400円

現代フランス哲学入門
川口 茂雄［文学部准教授］他編著
ミネルヴァ書房
3,500円

つくられた最長政権
石井 一［S28高、S32済卒］著
産経新聞出版
1,400円

Fate,Nature,and Literary Form The Politics of the Tragic in Japanese Literature
西 欣也［文学部教授］著
Academic Studies Press
$99